

ル使用人選任行為ハ雇傭ト委任ノ併合セル契約ナリトシ(商法原論二四九頁以下)大審院亦支配人ノ選任行為ノ性質ニ付テ此說ヲ採レルモ民事判決錄二二輯二〇六頁二三輯六九〇頁拙著私法論文集三卷一八二頁以下四五八頁以下授權契約ヲ以テ單ニ代理權ノ授與ヲ目的トスルニ止マリ當事者間ノ債權關係ヲ創設スルモノニ非ストスレハ之ヲ純然タル委任ナリトスルコトヲ得サルカ故ニ此說ハ之ヲ改メムト欲ス我邦商法學者ノ多數說ハ此點ニ於テ余ノ前說ト同キカ如シ唯志田博士法律評論全集商法三七頁以下)及ヒ西本氏(商法總論二六〇頁以下)ハ授權行為ニ付キ單獨行為說ヲ採リ又竹田博士商法總論四二〇頁以下)ハ代理權アル商業使用人ノ選任行為ハ委任ニシテ委任ニ因リ代理權カ授與セラルト同時ニ使用人カ勞務ニ服スル義務ヲ負フモノトセリ



上述セル如ク商業使用人中代理權ヲ有スル者ニ對シテハ之ト主人トノ間ノ雇傭契約ニ別ニ授權契約アルモ此契約ハ雇傭關係以外ニ債權關係ヲ創設スルモノニ非サルト同時ニ必ズシモ雇傭契約ニ隨伴シテ終始スルモノニ非ズ例ハ代理權ナキ商業使用人ニ對シ新ニ代理權ヲ授與シテ之ヲ支配人トスルトキハ雇傭關係ハ從前ヨリ存在シ新ニ授權契約ノミカ爲サルルヘク又支配人ニ轉任ヲ命シ之カ代理權ヲ消滅セシムルトキハ授權契約ノ解除アルモ雇傭契約ハ從前ノママ存続スヘシ之ニ反シ友人ニ委任シテ支配人タラシメタル者

代理權  
債權關係

雇傭關係  
債權關係

雇傭關係  
債權關係

ヲ新ニ狹義ノ使用人ニ選任スルトキハ授權契約ハ從前ヨリ存在シ新ニ雇傭契約ノミカ爲サルルヘク又狹義ノ使用人タリシ支配人ノ代理權ヲ繼續シ之トノ間ノ雇傭關係ヲ委任ニ轉換スルトキハ雇傭契約ノ解除アルモ授權契約ハ從前ノ儘存続スヘシ(商業使用人ト主人トノ間ノ内部關係ト其代理權トカ相牽聯シテ分離スヘカラサルモノニ非サルコト之ニ依リテ觀ルモ明ナルヘシ(註一七)

(註一七) 代理權アル商業使用人ト主人トノ間ノ關係ヲ雇傭及ヒ委任ノ併合セル契約關係ト觀タル從前ノ卑見ノ誤レルコト本文ニ述ヘタル所ニ依リテモ亦瞭然タルヘシ

支配人

支配人ノ意

### 第二節 支配人

#### 第一 支配人ノ意義

(Prokurist)トハ商人ニ依リテ配權ナル一種ノ代理權ヲ授與セラレタル者ヲ謂フ(Prokura)トハ商人ノ營業ニ關スル一切ノ行為ヲ爲スコトヲ得ヘク且之ニ加ヘタル制限ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サル代理權ヲ謂フ(一九條三〇條(註一))

本論 商業使用人 支配人

〔註一〕支配人ノ制度ハ獨舊商法ノ創設セル所ニシテ其他獨新商法、匈商法、瑞債務法、ブルガリア商法等ノ認ムル所ナリ英佛法系等ニハ之ニ該當スルモノナシ伊商法ノ *Intitore* 又ハ葡商法ノ *gerente de commercio* 等少シク支配人ニ類似スルモノアルモ之ニ該當スルモノニ非ス我商法ニ於テハ舊商法第四十二條以下既ニ代務人ヲ認ム是レ新法ノ支配人ト同一物ナリ施行法一八條

商人ニ依リテ選任セラレタル者ナ

主人持てて選任スルモノモ、他、持てて選任スルモノモ、

(一) 支配人ハ商人ニ依リテ選任セラレタル者ヲ謂フ商人ニ非サル者ノ代理人ハ縱令支配人ノ名稱ヲ有スルモ法律上ノ支配人タルコトヲ得ス又小商人ハ商人ナルモ支配人ヲ選任スルコトヲ得サルモノトス何トナレハ支配人ノ選任及其代理權ノ消滅ハ主人之ヲ登記スルコトヲ要スルモ(三一條)小商人ニハ商業登記ニ關スル規定適用ナク其登記ヲ爲スコトヲ得ヘカラサレハナリ(第三章第五節第二參照)又ハ破産中ノ會社ハ商人タル資格ヲ失ハサルモノナルモ(第三章第一節第二參照)支配人ヲ選任スルコトヲ得サルモノト解スヘシ(註二)

〔註二〕獨商法第二百九十八條、第三百二十條ハ清算中ノ株式會社又ハ株式合資會社カ支配人ヲ選任スルコトヲ得サル旨ヲ定ムルモ學說及ヒ判例ハ之ヲ以テ當然言テ俟タサル所ナリトス我商法ノ解釋トシテ亦同シカレヘシ(竹田博士商法總論四三〇頁以下、片山博士商法總論二八〇頁以下)尙ホ破産管財人カ支配人選任ノ權限ヲ有セサルコト亦通說ノ認ムル所ナリ

支配權ヲ有スル者ナルコト

支配人トシテ

支配權、又ハ支配權トシテ

支配權ヲ授與セラレタル者ナルコト

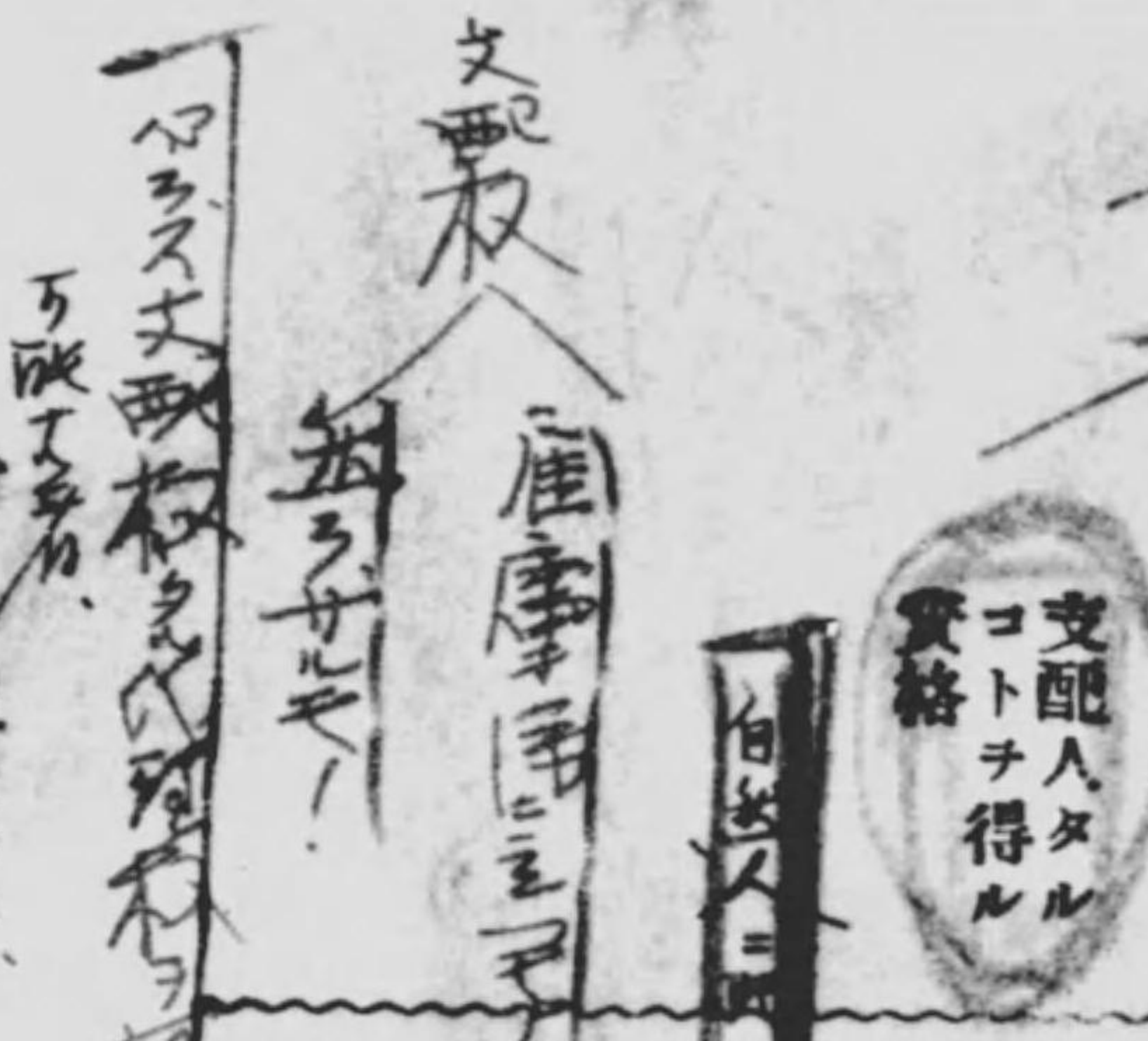
支配權

(二) 支配人ハ商人ニ依リテ支配權ヲ授與セラレタル者ヲ謂フ支配權ノ特色ハ其範圍カ營業ニ關スル一切ノ行爲ニ及フ廣汎ナルモノナルノ外之ニ加ヘタル制限ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカラサル點ニ在リ支配權ト此點ニ於テ他ノ代理權ト性質上ノ差異アルヲ以テ主人カ其使用人ニ支配權ト同一範圍ノ代理權ヲ授與スルコトアルモ支配權ヲ授與セサル限ハ支配權ヲ生セサルナリ又船舶管理ノ又ハ船長ノ代理權ハ之ニ加ヘタル制限ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サル點ニ於テ支配權ニ類似スル性質ヲ有スルモ(五五三條、五六六條、五六七條)其代理權ノ範圍カ特定事項ニ制限セラレル點ニ於テ支配權ト異レルモノトス

(三) 支配人ハ商人ニ依リテ支配權ヲ授與セラレタル者ヲ謂フ支配權ハ授與契約ニ因リテ授與セラレタルモノナルカ故ニ支配人ハ所謂委任代理人ニシテ法定代理人ニ非ス其代理權ノ範圍カ法定テルコトト法定代理ト混同スルコトナキヲ要ス商人ノ法定代理人又ハ會社ノ代表者若クハ取締役ノ代理權ハ營業ニ關スル一切ノ行爲ニ及フ廣汎ナルモノニシテ且之ニ加ヘタル制限ヲ以

ヲ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノナル點ニ於テ支配權ニ類似スル  
モ七條六二條一〇五條一一四條一七〇條二四三條其代理權ハ法定代理權ニシ  
テ授權契約ニ基クモノニ非サルヲ以テ支配權ト異レリ(前節註二註三參照)(註三)  
尙ホ其代理權ノ範圍モ亦支配權ニ比シ更ニ廣キモ此點ニ付テハ後詳述スヘシ  
(本節第三參照)

(註三) 會社代表機關構成者ノ代理權ハ實ハ代理權ニ非スシテ機關ノ權限タルモ法定代理ニ準  
スヘキモノトシテ假ニ之ヲ揭ケタリ尙ホ會社清算人ノ權限ニ付テハ商法第九十一條第百五  
條第百三十四條第百三十六條ヲ參照スヘシ



不可  
監督役  
取締役

(四) 支配人ハ通常狹義ノ商業使用人ニシテ主人ト雇傭關係ニ立ツ者ナルモ  
必スシモ之ニ限定セララルコトナキコト前節ニ説明シタル所ナリ而シテ狹義  
使用人ニ非サル支配人モ亦自然人ニ限ルヘク法人タルコトヲ得ヘカラス然  
レトモ苟モ自然人タル以上ハ無能力者ト雖モ支配人タルコトヲ得ヘシ(民法一

〇二條)尙ホ匿名組合員カ營業者ノ支配人ト爲リ會社ノ有限責任社員又ハ株主  
其會社ノ支配人ト爲ルハ固ヨリ妨クル所ニ非ス會社ノ無限責任社員又ハ取  
締役

不可  
監督役

締役カ其會社ノ支配人タルニ付テハ多少ノ異說ナシトセサルモ(註四)之ヲ不可  
トスヘキ理由ナシ唯會社ノ監督役ハ支配人ヲ兼ヌルコトヲ得サルモノトス  
八四條)

(註四) 代表權ヲ有セサル無限責任社員カ支配人タルハ代表權アリト誤解セシムルカ故ニ不可  
ナリトスル說アルモ(Staub 2 125 Ann. 4)二者ノ區別ハ商業登記ニ依リテ明白ナルヘク之ヲ探ル  
ヘカラス又取締役ニ付テモ支配人ヲ兼ヌヘカラストスル說アルモ(Staub 3 48 Ann. 3 日本法政  
新誌一八卷一二號花村氏論文余ハ之ヲ探ラス(同說法曹記事二二卷一一五九頁法曹會決議)

### 第二 支配人ノ選任及ヒ終任

選任及ヒ解任ノ行爲者  
支配人ノ選任及ヒ終任  
(一) 支配人ノ選任及ヒ解任ハ主人之ヲ爲スモノニシテ支配人カ其支配權ニ  
基キ他ノ支配人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得サルハ支配人カ番頭又ハ手代ヲ  
選任スルコトヲ得ヘキ旨ノ規定ノ反面ヨリ生スル解釋タリ(三〇條二項)而シテ  
會社カ支配人ヲ選任又ハ解任スルニ付テハ商法ハ合名會社ニ在リテハ總社員  
ノ過半数ノ決議合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ過半数ノ決議株式會社又

本論 商業使用人 支配人

ハ株式会社合資會社ニ在リテハ取締役又ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ過半數ノ決議ニ依ルヘキモノトス(五七條、一一〇條、一六九條、二四三條)蓋シ支配人ノ選任及ヒ解任ハ重要ナル事項ナルヲ以テナリ然レトモ此要件ハ會社内部ノ關係ニシテ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スヲ得ヘキハ勿論假令此要件ヲ履マヌシテ選任又ハ解任ヲ爲スモ適法ナル代表機關ニ依リテ爲サレタル以上ハ其行爲ノ效力ヲ妨ケサルナリ

(二) 支配人ノ選任ハ主人ト支配人トノ間ノ支配權授與ノ契約ニ因ル(前節第四參照)而シテ其授權契約ノ方式ニ付テハ別ニ規定ナキヲ以テ明示ノ外默示ノ意思表示ニ因リテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ(註五)又支配人ニハ支配人又ハ支配役ナル名稱ヲ附スルコトハ要件ニ非ス(支店長、總理事又ハ副支配人等ノ名稱ヲ以テスルモ之レニ支配權ヲ授與スル意思表示アル以上ハ支配人ノ選任アルモノト解ササルヘカラス(註六)又支配人又ハ支配役ナル名稱ノ使用人ヲ選任スルモ必ズシモ之ヲ以テ法律上ノ支配人ナリト看做スヘキ理由ナシ支配人ノ選任アリタルヤ否ヤハ支配權授與ノ意思表示ノ有無ニ依リテハ(註七)判定スヘキ問題

選任行爲

① 商法施行法ニ再行リ其條モハ(註五)ニ依リテ行爲ノ效力ヲ有ス  
 ② 支店長、總理事、副支配人等ノ名稱ヲ以テスルモ之レニ支配權ヲ授與スル意思表示アル以上ハ支配人ノ選任アルモノト解ササルヘカラス(註六)  
 ③ 使用人トシテ之ヲ以テ法律上ノ支配人ナリト看做スヘキ理由ナシ

主人ト向テ應得契約ノ有無ニ關係ス  
 ① 支店長、總理事、副支配人等ノ名稱ヲ以テスルモ之レニ支配權ヲ授與スル意思表示アル以上ハ支配人ノ選任アルモノト解ササルヘカラス(註六)  
 ② 方式ヲ問ハズ  
 ③ 使用人トシテ之ヲ以テ法律上ノ支配人ナリト看做スヘキ理由ナシ

ナリ唯支配人ナル名稱ノ使用人ヲ選任スルトキハ第三者ハ之ヲ支配人ナリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有スル結果主人カ第三者ニ對シ其者ノ爲シタル行爲ニ付キ責ニ任スルコトアリ得ヘキノミ(民法一〇九條、一一〇條)(註七)

(註五) 獨商法第四十八條ハ支配權ノ授與ハ明示ノ意思表示ヲ以テスヘキ旨ヲ定ムルモ我商法ニハ此ノ如キ規定ナシ支配人ノ選任ハ後述スル如ク登記事項ナルモ選任後ニ登記セラルヘキモノニシテ假令登記ナキモ選任ナキモノト解スヘカラサルハ勿論ナリ

(註六) 我邦多數學說ハ支配人又ハ少クトモ支配役ナル名稱ヲ要件トスルカ如キモ何等根據ナシ(同說竹田博士商法總論四三三頁以下、寺尾氏商法原理二九三頁、四本氏商法總論二五九頁、志田博士商法總論三五版一四〇頁、尙ホ副支配人ヲ支配人ト認メタル多少ノ判例アリトス(法律新聞三〇〇號一〇頁、東京控訴院判決、同九一七號二七頁、大阪地方裁判所判決)

(註七) 商法施行法第十九條ハ商法施行前ヨリ支配人又ハ支配役ト稱スル者カ支配權ヲ有セサルトキハ主人カ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其名稱ヲ改メサル限リハ商法上ノ支配人ト看做スヘキ旨ヲ定ムルモ此特別規定ヲ以テ他ノ場合ニ類推スヘキノ限ニ在ラサルハ勿論ナリ

(三) 支配人ノ解任又ハ辭任ハ主人又ハ支配人ノ相手方ニ對スル一方的意思表示授權契約ノ解除ニ因リ何種ノ要件モ之ヲ爲スコトヲ得ヘク支配權ハ之ニ因リテ消滅スヘシ(前節註一五參照)而シテ其意思表示ハ亦明示タルコトヲ要セス

解任及ヒ辭任ノ行爲

授權契約ノ解除(形式)

本論 商業使用人 支配人

主人ト又ハ同一代理權ヲ行使スル以外ノ關係ノ消滅當然ニ代理權ヲ消滅スルモノニ非ズ

由事  
其ノ終任

長  
三  
六

營業ノ消滅

全  
部  
解  
散

例ハハ狹義ノ商業使用人タル支配人ヲ解僱シタルトキハ特別ノ理由ナキ限りハ授權契約モ亦解除セラレタルモノト解スヘキナリ

(四) 解任又ハ辭任以外ニ於テ支配人ノ代理權ハ主人ノ破産又ハ支配人ノ死亡破産若クハ禁治産ノ宣告ニ因リテ消滅スヘキモ主人ノ死亡ニ因リテ消滅スルコトナシ前節註一五參照尙ホ大審院民事判決録二二輯二〇六頁拙著私法論文集三卷一八二頁以下其他支配人ノ代理權ハ主人ノ營業ノ廢止又ハ營業ノ讓渡ニ因リテモ消滅スヘシ(註八)會社ノ解散ノ場合亦同シ(註九)

(註八) 營業讓渡ノ場合ニ付テハ獨逸ノ通説ハ信任關係ノ斷絶ニ因リ支配權カ消滅スヘキモノトシ(Staub § 52 Ann. 15; Lehmann-Ring § 53 Nr. 3; Goldmann § 52, 3; Wieland S. 363; R. O. H. G. II S. 373; A.M. Tlize in Ehrenbergs Handb. II S. 933)余ヲ以テ之ヲ觀ルニ支配人ハ營業自體ノ代理人ニ非ズシテ主人ノ代理人タルカ故ニ營業讓渡ニ因リ主人ノ營業カ消滅スルト共ニ支配權モ亦當然消滅スヘシ(反對青山博士商法總論三五版一九八頁)但此場合ニ於テ讓受人カ別ニ支配權ヲ授與シタルモノト觀ルヘキコト稀ナラサルヘシ

(註九) 會社解散ノ場合ニ支配權カ消滅ストスルハ獨逸ニ於ケル通説ナリ我邦學者寧ロ反對意見ヲ抱ケルカ如キモ(竹田博士商法總論四三七頁)片山博士商法總論三〇九頁以下(註十)會社カ支配人ヲ選任スルコトヲ得ザルト同理ニ依リ既存ノ支配權モ消滅スト解スルチ可ト

支配人ニ關スル登記

支配人ノ代理權

(五) 支配人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ置キタル本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ主人之ヲ登記スルコトヲ要ス(三一條)此登記ニ關スル手續ハ非訟事件手續法第七十二條以下ニ之ヲ定ム又此登記ノ效力ニ關シテハ商業登記ニ付テ説明シタル所第五章第四節ヲ參照スヘシ

### 第三 支配人ノ代理權

支配人ハ主人ニ代ハリテ其營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(三〇條)故ニ支配人ノ代理權即チ支配權ハ主人ノ營業ニ關スル一切ノ行爲ニ及フ廣汎ナル法定範圍ヲ有スルト同時ニ(註一〇)善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ制限ヲ加フルコトヲ得ヘカラサル特質ヲ有ス

支配人ハ主人ニ代ハリテ一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ヘク是レ獨逸學者カ支配人ヲ以

本論 商業使用人 支配人

テ主人ノ身代リ(altene ego)ト稱スル所以ナリ然レドモ支配權ノ範圍ハ後述スル如ク商人ノ決定代理人又ハ會社ノ代表機關ノ權限ノ如ク廣汎ナラス特定ノ營業及ヒ其置カレタル營業所ノ營業ニ關スル行爲ニ限定セラレルモノナリ

其營業ニ關スル行爲

抽象的ニモ行爲ヲ指稱スルモノト解ササルヘカ  
具體的ニモ行爲ヲ指稱スルモノト解ササルヘカ

(一) 支配人ハ主人ニ代ハリテ其營業ニ關スル行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス其營業ニ關スル行爲トハ主人ノ營業ニ關スル行爲ヲ指稱スルモノト解ササルヘカララサルモ行爲ヲ抽象的ニ指稱シテ特定ノ營業ノ爲メニ爲サレ得ヘキモノナルトハ具體的ノ行爲ガ眞ニ其營業ノ爲メニセラレタルト否トヲ問ハス支配人ハ之ヲ爲ス權限アリ從テ主人ハ其效果ヲ受クヘキモノト解スルコトヲ要ス(註一) 例ヘハ支配人カ主人ノ名ニ於テ借財ヲ爲シ之ヲ私消スルモ苟モ借財ナル行爲カ主人ノ營業ノ爲メニ爲サレ得ヘキ行爲ナル以上ハ主人ハ其責ヲ免ルヘカラサルナリ(註二) 然レドモ支配權ハ主人ノ營業ニ依リテ限定セラレルヲ以テ營業全部ノ讓渡ノ如ク營業ノ存續ヲ前提トセサル行爲ヲ爲スコトヲ得ヘカラサルハ勿論其他營業ニ關セサル行爲ハ如何ニ些細ナル行爲ト雖モ特ニ代理權ヲ授與セラレサル限りハ支配人ハ之ヲ爲ス權限ヲ有セサルナリ(註三)

2. 營業ノ存続ヲ前提トシテ行ハルハ營業讓渡ニ關セサル行爲

(註一) 獨審商法第四十二條及ヒ新商法第四十九條ハ一ノ營業ニ伴ヒ生スル行爲(Geschäften nach

Rechtshandlungen, die der Betrieb eines Handelsgewerbes mit sich bringt)ナル語ヲ用ヒ特定ノ營業ニ關スル行爲ニ限ラス一般的ニ觀テ營業ニ伴ヒテ生スル行爲ナル意義ヲ明ニセリ是レ營業ヲ抽象的ニ觀察セル規定ナリ(Vergl. R. O. H. G. 13 S. 224) 瑞債務法第百五十九條ハ之ト異リ主人ノ營業ノ目的ニ伴ヒ生スルコトヲ得ヘキ行爲(Rechtshandlungen, die der Zweck des Gewerbes oder Geschäftes des Geschäftsherrn mit sich bringen kann)ナル語ヲ用ヒ特定主人ノ營業ニ關スルモ之ニ關シ生シ得ヘキ行爲ニシテ具體的行爲カ其營業ノ爲メニ爲サレタルヤ否ヤヲ問ハサルコトヲ明ニセリ是レ行爲ヲ抽象的ニ觀察セル規定ナリ而シテ此二法間ノ實際ノ結果ハ多ク異ルコトナキナリ(Wieland S. 356 Anm. 4) 我商法カ其營業ニ關スル行爲ト云ヘルハ特定主人ノ營業ニ關スル行爲ナルコト之ヲ第六十二條ノ所謂會社ノ營業ニ關スル行爲ト對照シテ爭フヘカラサル所ナルヘキモ所謂「關スル」行爲ナル語ハ本文ニ述ヘタル如ク行爲ヲ抽象的ニ觀察シテ之ヲ解釋セサルヘカラス換言スレハ瑞西法ト同ク「關シ生スヘキ行爲」ノ意味ト看做ササルヘカラス各個具體的行爲カ眞ニ營業ニ關スルヤ否ヤヲ判斷スルカ如ク取引ノ實際上不能ナルヘカレハナリ(同說竹田博士商法總論四四二頁以下)

(註二) 大審院ハ民法第九十九條ノ解釋トシテハ代理人ノ意思表示カ本人ノ爲メニスルコトヲ示シテ爲サレタル以上ハ實ハ地位ノ濫用ニ依リテ爲サレタル場合ニ於テモ其效力ヲ本人ニ及ホスモノトセルニ拘ラス(民事判決錄一一輯九九頁、二一輯九九頁、二三輯一一六八頁支

本論 商業使用人 支配人

配人ノ行爲ニ付テハ動モスレハ此點ニ關スル意見ノ一定セサル觀アルハ惜ムヘシ例ヘハ支配人カ會社ノ爲メニ借財ヲ爲シタルトキハ反證ナキ限リ會社ノ目的遂行ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノニシテ支配人ノ權限内ニ屬スルモノト認ムヘシトセルハ(一四輯一〇八頁)反證アラハ反對ニ決定スルノ趣旨ヲ示セルモノニシテ不可ナリ又支配人カ其資格ヲ濫用シテ自己ノ爲メニ銀行ヲシテ他人ノ債務ノ保證ヲ爲サシメタルハ權限外ノ行爲ナリトセルハ(二六輯二一二頁)最モ不可ナリ然レトモ支配人カ主人ノ爲メニ手形ヲ振出シタル場合ニ於テ内實營業上ノ必要ニ出テタルニ非ストスルモ之ヲ以テ第三者タル手形所持人ニ對抗スルコトヲ得ストセルハ(二〇輯三二三頁)正當ナリ

大審院ハ支配人ハ主人ニ代ハリテ其營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルモ人格又ハ自分ニ關スル行爲ヲ包含セサルヲ以テ取締役ノ辭任ノ意思表示ヲ受クルコトヲ得サルモノトセリ民事判決錄二七輯一頁)

(二) 支配人ハ營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス故ニ其行爲ノ通常的ノモノタルト非常的ノモノタルト又ハ營業ノ目的タルモノタルト之ニ附屬スルモノタルトヲ分タス取引金額ノ大小又ハ對價ノ有無等ヲ論セス苟モ營業ニ關シテ生スヘキ一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ヘク(註一四)行爲ノ性質如何ヲ問ハサルナリ(大審院民事判決錄一六輯七二四頁)營業ニ關シテ代理人ヲ選任スル

營業ニ關スル一切ノ行爲

如キハ固ヨリ權限内ニ屬スル所ナリ(大審院民事判決錄一六輯一七九頁)商法カ特ニ番頭手代其他ノ使用人ヲ選任スルコトヲ得ヘキ旨ヲ定メタルハ(三〇條二項)當然言フ俟タサル所ニシテ支配人カ他ノ支配人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得ヘカラサル趣旨ノ反面解釋ヲ生セシムルノ外意味ナキ規定ナリ(註一五)又支配人カ營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル結果トシテ本人又ハ其法定代理人カ能力又ハ權限ノ制限ニ依リ無條件ニ自ラ爲スコト能ハサル行爲ヲモ亦之ヲ爲スコトヲ得ヘシ(註一六)

(註一四) 獨商法ハ不動産ノ處分又ハ負擔ハ特別授權アルニ非サレハ支配權ニ屬セサルモノトセルモ我商法上ハ此ノ如キ制限アルコトナシ

或ハ此規定ハ復代理人ノ選任ニ關スル民法第四百四條ノ例外規定トシテ必要ナリト説明スル者アレトモ復代理人ハ代理人カ自己ノ名ヲ以テ選任スルモノナルモ番頭手代等ノ選任ハ本人ノ爲メニ選任スルモノナルヲ以テ復代理人ニ非サルナリ(鳩山博士法律行爲乃至時效二九八頁參照)

(註一六) 大審院ハ後見人カ自ラ手形ヲ振出スニ親族會ノ同意ヲ要ストスルモ其選任シタル支配人カ手形ヲ振出スニ特ニ親族會ノ同意ヲ要スルモノニ非スト判決セリ(民事判決錄二〇輯三二三頁)尙ホ準禁治產者ノ支配人ニ付キ第三章第三節第四ニ説明セル所ヲ參照スヘシ



能ハサル行爲  
自ラ爲スコトヲ得

三〇條二項

營業ニ關スル裁判上又ハ裁判外ノ行為

三) 支配人ハ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス其行為カ狹義ノ法律行為ニ限ラサルハ裁判上ノ行為ヲ包含スルニ依リテ明ザルヘク尙モ代理ヲ許サレタル法律的行為(Rechtshandlungen)ハ總テ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ(註一七)然レトモ性質上又ハ法律上代理ヲ許ササル行為ヲ爲スコトヲ得サルハ言ヲ俟タス又支配人ハ裁判外ノ行為ノ外裁判上ノ行為モ亦之ヲ爲ス權限ヲ有スルヲ以テ當然主人ニ代ハリテ各種ノ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得ヘク(註一八)民事訴訟法第六十三條ノ規定ノ解釋トシテモ支配人カ主人ニ代ハリテ訴訟ヲ爲ストキハ辯護士ヲ訴訟代理人トスルノ必要ナキモノト解スヘシ(註一九)然レトモ支配人ハ所謂委任代理人ナルヲ以テ之ヲ民事訴訟法上ノ所謂法律上代理人ナリト解スルハ(大法院民事判決錄一三輯四一五頁)不可ナリ(前田氏法學新報二九卷三號八〇頁)

支配人ノ不法行為ニ付テハ大審院ハ支配人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ損害ヲ加ヘル場合ニハ民法第七百十五條ノ適用アルモ主人カ會社ナル場合ト雖モ民法第四十四條ノ適用ナシトセリ(民事判決錄二三輯六九〇頁)拙著私法論文集三卷四五九頁以下

註一八

刑事訴訟上ノ告訴ノ如キモ代理ヲ許スヲ以テ(刑訴法二七一條)營業ニ關スル事件ニ付

支配人ノ行為ニ付テハ獨逸學者ノ通説トス判例亦之ニ依リ(R. G. Str. 16 814)

註一九

多數ノ商法學者ハ支配人ニ付キ民事訴訟法第六十三條ノ適用アリ從テ原則トシテ辯護士ニ非サレハ訴訟代理人タルコトヲ得サルモノトセリ然レトモ舊商法第四十五條及ヒ第五十一條ヲ對照シ商法ニ所謂裁判上ノ行為ノ意義ヲ解スルトキハ支配人ハ當然訴訟代理權ヲ有スル者ニシテ訴訟委任ニ因リテ訴訟代理人ト爲ル者ニ非ス從テ第六十三條ノ例外ヲ爲スモノト觀サルヘカラス(尙ホレリスレル草案四六條及ヒ五二條理由參照)大審院及ヒ多數ノ民事訴訟法學者ハ余ト同説ナリ(民事判決錄八輯六卷六三頁)岩田博士民事訴訟法原論一六五頁以下、仁井田博士改訂民事訴訟法大綱一三四頁以下)

支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限

對外的ニ有效  
對外的ニ無効  
對外的ニ無効  
對外的ニ無効

四) 支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス代理權ニ制限ヲ加フルトハ或種類若クハ特定ノ事項ニ限リ權限ヲ認ムルカ又ハ特定ノ場所若クハ時ニ於テ又ハ特定ノ狀態ニ於テノミ權限ヲ行使スルコトヲ得ルモノトスルノ類ヲ謂フ(獨商法五〇條參照)此ノ如キ制限ヲ加フルトキハ主人ト支配人トノ間ノ關係ニ於テハ其制限ハ効力アリ之ニ反シタル行為ニ付キ主人ハ支配人ニ對シテハ損害賠償其他ノ救済ヲ求ムルコトヲ得ヘキモ善意ノ第三者ニ對シテ其制限ヲ對抗シテ支配人ノ行為ノ効力ヲ否認スル

本論 商業使用人 支配人



制限

支配権

付与の有効  
支配権(支配権)の行使

コトヲ得サルナリ(註二〇)又此種ノ制限ハ登記スヘキ事項ニ非サルヲ以テ假令誤テ之ヲ登記スルコトアルモ登記ノ効力ヲ生スルコトナキモノタリ而シテ支配人ノ權限ノ擴張モ亦之ヲ爲スコトヲ得ス其權限以外ノ事項ニ付キ特別ノ授權ヲ爲スハ固ヨリ妨ケサルモ是レ亦登記スヘキ事項ニ非サルコト權限ノ制限ト同シ

(註二〇) 獨商法、獨商法等ハ支配權ハ第三者ニ對シ絕對ニ制限スヘカラサルモノトス(所謂支配權ノ全體ナケレハ支配權ナシ Entweder ganz Prokura oder keine Prokura)我商法ハ此點ニ於テ善意ノ第三者ニ對シテ制限スヘカラサルモノトスルコト瑞債務法(四五九條)ト其主義ヲ同クセリ尙ホ善意ノ第三者ノ意義ニ付テハ第十二條ニ關スル說明(第五章第四節第一)ヲ參考スヘシ

(五) 上述セル如ク支配人ノ代理權ハ法定範圍ヲ有シ主人ハ有効ニ之ヲ制限スルコトヲ得サレトモ其法定ノ範圍ハ必スシモ主人ノ有スル營業全部ニ亘ルモノニ非ス數個ノ營業又ハ營業所アルトキハ支配權ハ其特定ノ營業ニ付キ授與セラルルモノニシテ他ノ營業又ハ營業所ニ及ブヘキモノニ非ス是レ支配權商人ノ法定代理人又ハ會社ノ代表機關ノ權限ト異ル重要ナル點ナリ(註二〇)

支配人ノ代理權ノ法定範圍

①

1. 特定ノ營業ニ關スル  
2. 營業所アル場所ニ限リ

此種法定代理人又ハ代表機關ノ營業全部ノ讓渡又ハ會社ノ合併ノ如ク營業自體ノ消滅ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコトヲ得ル點ニ於テモ支配權ヨリモ一層廣汎ナル權限ヲ有セ

個人ノ營業所

1. 對シテ數個ノ營業所

2. 對シテ數個ノ營業所

(イ) 支配人ハ特定ノ營業ニ關スル代理人ニシテ主人カ數種ノ營業ヲ有スルトキハ其一營業ニ關シ支配人ヲ選任スヘキモノナリ然ルニ非訟事件手續法第七十三條ノ規定ハ商人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ營業ヲ營ム場合ニハ支配人カ代理スヘキ商業及ヒ其用フヘキ商號ヲ登記スルコトヲ要スルモノト故ニ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ營業ヲ營ム場合ニ限リ其一營業ニ關スル支配人ヲ選任スルコトヲ得ヘク一個ノ商號ヲ以テ數種ノ營業ヲ營ム場合ニハ支配權ニ付テハ法律ハ之ヲ一營業ト看做スモノト解ササルヘカラス(一人ノ數營業ニ付テハ第三章第一節第三參照)

(ロ) 主人カ一營業ニ關シ數個ノ營業所ヲ有スルトキハ主人ハ其一營業所ノ營業ニ關シ支配人ヲ選任スヘキモノト解スルヲ要ス商法カ商人ハ支配人ヲ選任シ其本店又ハ支店ニ於テ其商業ヲ營マシムルコトヲ得ト定メ(一九條)支

數個ノ營業所アル場合

1. 對シテ數個ノ營業所  
2. 對シテ數個ノ營業所

非訟事件手續法

本論 商業使用人 支配人

配人ノ登記ハ之ヲ置キタル本店又ハ支店ノ所在地ニ於テスヘキモノト定メ  
(三一)又非訟事件手續法第七十三條カ支配人ノ選任ニ付キ支配人ヲ置キ  
タル場所ヲ登記スヘキモノト定メタルハ此ノ趣旨ト解ササルヘカラス(註二  
三)

(註二二) 獨商法第五十條ハ各營業所カ商號ヲ異ニスル場合ニ限リ一營業所ノ支配人ヲ選任ス  
ルコトヲ得ルモノトセル點ニ於テ我商法ト主義ヲ異ニセリ

(ハ) 上述セル如ク支配權ハ商號ヲ異ニスル一營業又ハ各營業所ノ營業ニ  
限定セラルヘキモ主人ハ同一支配人ヲ以テ數營業ノ支配人ヲ兼ネシムルハ  
妨クル所ニ非ス此場合ニ於テハ數個ノ支配權カ同一人ニ授與セラレタルモ  
ノニシテ即チ一人カ同時ニ數個ノ支配人ノ權限ヲ兼有スルモノト解スルヲ  
正當トスヘシ

(六) 商人カ特定ノ營業ノ爲メ又ハ特定ノ營業所ニ同時ニ數人ノ支配人ヲ置  
キタルトキハ數人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得(三〇條ノ  
二)之ヲ稱シテ共同支配 (Gesamtprokura, Kollektivprokura)ト謂ヒ其支配人ヲ共同支

共同支配人

數營業ノ支  
配人

B.  
一人ノ數人カ數個ノ支配權ヲ兼有  
スル場合

數人共同シテ代理權ヲ行フ場合  
ニ數人ノ代理權ナシ  
此トモ同左モ云フニシテ(當院決リ依リナシ)

配人ト謂フ蓋シ支配人ノ權限タルヤ廣汎ニシテ且有効ニ制限スルコトヲ得ヘ  
カラサルヲ以テ濫用ノ危險甚大ナルノミナラス數人カ各別個ノ行爲ヲ爲ス結  
果互ニ桿格ヲ生スル虞ナシトセス此危險ト不便トヲ防止スル爲メニハ共同支  
配人ヲ置クヲ可トス然ルニ**共同支配**ハ客觀的ニハ**一個完全ナル支配權カ數人**

共同支配

客觀的ニ一完全ナル一ノ支配權  
數人ニ授與セラレタルモノナリ

主觀的ニ數人ノ權限ニ制限  
カ附スルモノナリ

共同ニ授與セラレタルモノト觀ルヲ得ヘキモ(Felix Bie, Über die Kollektivproku-  
ra)主觀的ニハ各人ノ權限ノ行使ニ大ナル制限アルモノト觀サルヘカラサルカ  
故ニ拙著商法原論二六四頁以下法律ノ明文ニ依リ之ヲ認ムルコトヲ要ス是レ  
前掲セル特別規定アル所以ナリ(註二三)

(註二三) 共同支配ニ關スル規定ハ獨、匈、瑞等ノ諸國法ノ有スル所ニシテ我舊商法第四十八條亦  
代務人ニ付キ之ヲ定メタルモ新商法ニハ規定ナク余ハ之ヲ以テ缺點ナリトセリ(拙著私法論  
文集一卷七五頁以下)本文ニ掲ケタル規定ハ改正法ニ依リ追加セラレタルモノナリ

共同支配人ヲ置クニハ必スシモ數人ノ支配人ノ全員ヲ共同支配人トスルコ  
トヲ要セス例ヘハ(一)甲乙丙ヲ三者共同スヘキモノトシ(二)甲ハ單獨ニテ支配權  
ヲ行使シ乙丙ノミ共同スヘキモノトシ(三)甲ハ乙又ハ丙乙ハ丙ト云フカ如ク二

組合セ

本論 商業使用人 支配人

人ニテ共同スヘキモノトシ(四)甲ハ單獨ニテ可ナルモ乙又ハ丙ハ必ス甲ト共同スヘキモノトスル(所謂半面的共同代表 halbseltige Gesamtvertretung)カ如ク(註二

四)如何ナル組合セヲモ定ムルコトヲ得ヘシ(註二五)

[註二四] 此最後ノ方法ノ適法ナルヤ否ヤニ付テハ多少ノ異説ナキニ非サルモ獨逸ノ判例ハ之ヲ認ム(R. G. 90 S. 31; Busch 40 S. 61)

[註二五] 目人ヲ共同支配人中ニ加ヘ其共同ヲ要スルモノトスルヲ得サルハ勿論ナリ尙ホ會社ノ代表社員又ハ取締役ト支配人トノ共同代表ニ付テハ第六十一條ノ二第百七十條ノ定ムル所ナリ

積極代理

同時ニコトヲ意思表示ハ全員カ之ヲ爲スコトヲ要ス但其意思表示ハ必スシモ同時ニ爲サルルコトヲ要セス又一人カ明示ニテ爲シ他カ默示ニテ爲スモ可ナレトモ(註二六)相手方ニ對シテ一人ノ意思表示アルノミニシテ他ハ其一人ニ對スル内部的ノ同意ヲ爲シタルニ止マルトモハ共同代表行爲アリタルモノト觀ルヘカラス而シテ相手方ニ對シ一人カ先ツ意思表示ヲ爲シタルトキハ行爲ハ未成立ノ狀態ニ在リ共同支配人全員ノ意思表示ノ爲サレタルトキニ初メテ完了スルモノト觀

更ニ代理行爲  
a. 全部ノ意思表示ヲ  
b. 要式行爲ニ付テハ  
完備スルコトヲ要ス

共同支配人ハ共同シテノミ代理行爲ヲ爲スコトヲ得ヘク相手方ニ對スル意思表示ハ全員カ之ヲ爲スコトヲ要ス但其意思表示ハ必スシモ同時ニ爲サルルコトヲ要セス又一人カ明示ニテ爲シ他カ默示ニテ爲スモ可ナレトモ(註二六)相手方ニ對シテ一人ノ意思表示アルノミニシテ他ハ其一人ニ對スル内部的ノ同意ヲ爲シタルニ止マルトモハ共同代表行爲アリタルモノト觀ルヘカラス而シテ相手方ニ對シ一人カ先ツ意思表示ヲ爲シタルトキハ行爲ハ未成立ノ狀態ニ在リ共同支配人全員ノ意思表示ノ爲サレタルトキニ初メテ完了スルモノト觀

ルヘシ

共同支配人カ他共同支配人ニ委任スル場合  
A. 全部の委任: 不可、以て他の共同支配人ニ委任スルコトヲ要スルコト勿論ナリ

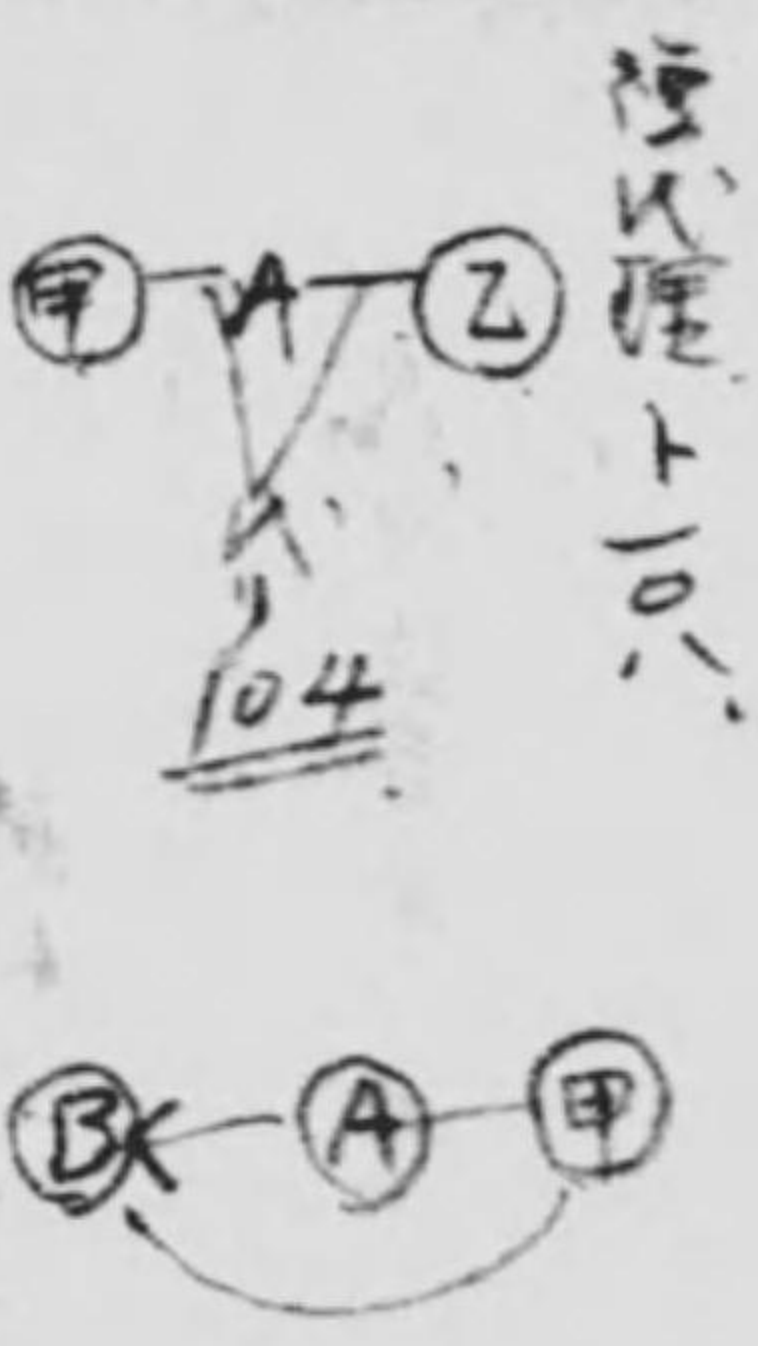
一部(特定)の委任

(消極的)

共同支配人ニ委任スル場合  
a. 全部の委任: 不可、以て他の共同支配人ニ委任スルコトヲ要スルコト勿論ナリ  
b. 一部(特定)の委任: 可、以て他の共同支配人ニ委任スルコトヲ要スルコト勿論ナリ  
c. 消極的委任: 可、以て他の共同支配人ニ委任スルコトヲ要スルコト勿論ナリ

共同支配人カ或種類又ハ特定ノ行爲ヲ其一人ニ委任シ單獨ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ獨逸ノ近時ノ判例ハ積極說ヲ採リ(R. G. 48 S. 57; 63 S. 96; 80 S. 180; 81 S. 325; 90 S. 299)學者ノ通説亦之ニ從フ蓋シ多クハ獨商法(二二五條、二三五條)カ會社ノ社員又ハ取締役ノ共同代表ニ付キ明文ヲ以テ之ヲ認メタルヲ支配人ニ類推スルモノタリ然レトモ此說ニ對シテハ授權セララル一人ハ同時ニ共同授權行爲者タルヲ以テ其授權ハ代理人ノ自己トノ間ノ行爲トシテ無効ナリトシ(獨民法一八一條、民法一〇八條參照)又ハ前掲セル會社ニ關スル規定ノ反對論法ヨリ支配人ニハ之ヲ認ムヘカラストスル有力ナル反對說ナシトセス(Hupka, Die Vollmacht S. 371 ff.; Ritter, H. G. B. Vorbem. z. § 48; Lehmann-Ring § 48 Nr. 10; Wieland S. 366)余ヲ以テ之ヲ觀ルニ共同支配人ハ番頭手代ヲ選任シ其他本人ノ爲メニ代理人ヲ選任スルコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ共同支

本論 商業使用人 支配人



配人中ノ一人ナルカ故ニ之ニ授權スヘカラストスヘキ理ナシ  
 規定ハ專ラ本人ノ利益ヲ保護スル爲メニ設ケラレタル規定ニシテ本人ノ許可  
 アル場合ニ適用ナキハ爭ナキ所ナルヲ以テ鳩山博士法律行為乃至時効三一八  
 頁其精神ヨリ推論シテ共同支配人カ其一人ニ或種類又ハ特定ノ行為ニ關スル  
 代理權ヲ授與スル場合ニハ當然適用ナキモノト解スルヲ可トスヘシ反對說ハ  
 條理ニ反スル結果ヲ生スルヲ以テ余ハ之ヲ採ラス(註二七)

西本氏商法總論二八八頁ハ理由ヲ示サスシテ共同支配人ノ一人カ代理人タルヲ得ル  
 ノトス竹田博士商法總論四五二頁以下ハ之ニ反シ民法第八條ノ外復代理ニ關スル民法  
 第四百四條ニ反スルモノトシテ消極說ヲ採ルモ共同支配人ノ一人ハ主人ノ爲メニ其代理人  
 選任權ヲ認メタルハ共同支配ノ場合ニ於テ共同支配人ノ一人ニ授權スルコトヲモ認メ民  
 法第百八條ノ適用ヲ除外スルモノト解スルモ亦一方法タルヘシ

共同代理

共同支配ノ場合ニ於テ其一人ニ對シテ爲シタル意思表示ハ主人ニ對シテ其  
 効力ヲ生ス(三〇條ノ二、二項)即チ受働代理ニ付テハ一人ニテ權限ヲ有スルモノ  
 タリ民事訴訟法上ノ送達手形ノ引受又ハ支拂ノ請求ノ如キモ一人ニ對スルヲ  
 以テ足ルモノト解スヘシ又意思表示ノ効力カ或事情ヲ知リタルコト又ハ之ヲ  
 知ラサル過失アリタルコトニ因リ影響ヲ受クヘキ場合ニ付テハ此規定ノ類推  
 ニ依リ一人ノ支配人ノ知不知ヲ以テ足レリトスヘキナリ(民法一〇一條鳩山博  
 士法律行為乃至時効二九六頁參照)

共同支配人ニ付キ代理權消滅ノ事由アリタルトキハ全員ノ支配權カ消滅ス  
 全共同ノ主ノ新ニ授權スルコトヲ要スヘシ然レドモ受働代理ノ權限ハ  
 消滅スルコトナク又例ヘハ甲カ乙又ハ丙ノ何レトモ共同スルコトヲ得ヘキ場  
 合ニ於テ乙丙ノ一人ノ終任ハ他ノ一人トノ共同支配權ニ影響ナキハ勿論ナリ  
 共同支配ニ關シテ定メタル事項及ヒ其變更竝ニ消滅ハ主人之ヲ登記スルコ  
 トヲ要ス(三一條非訟法一七三條一項四號)

本論 商業使用人 支配人



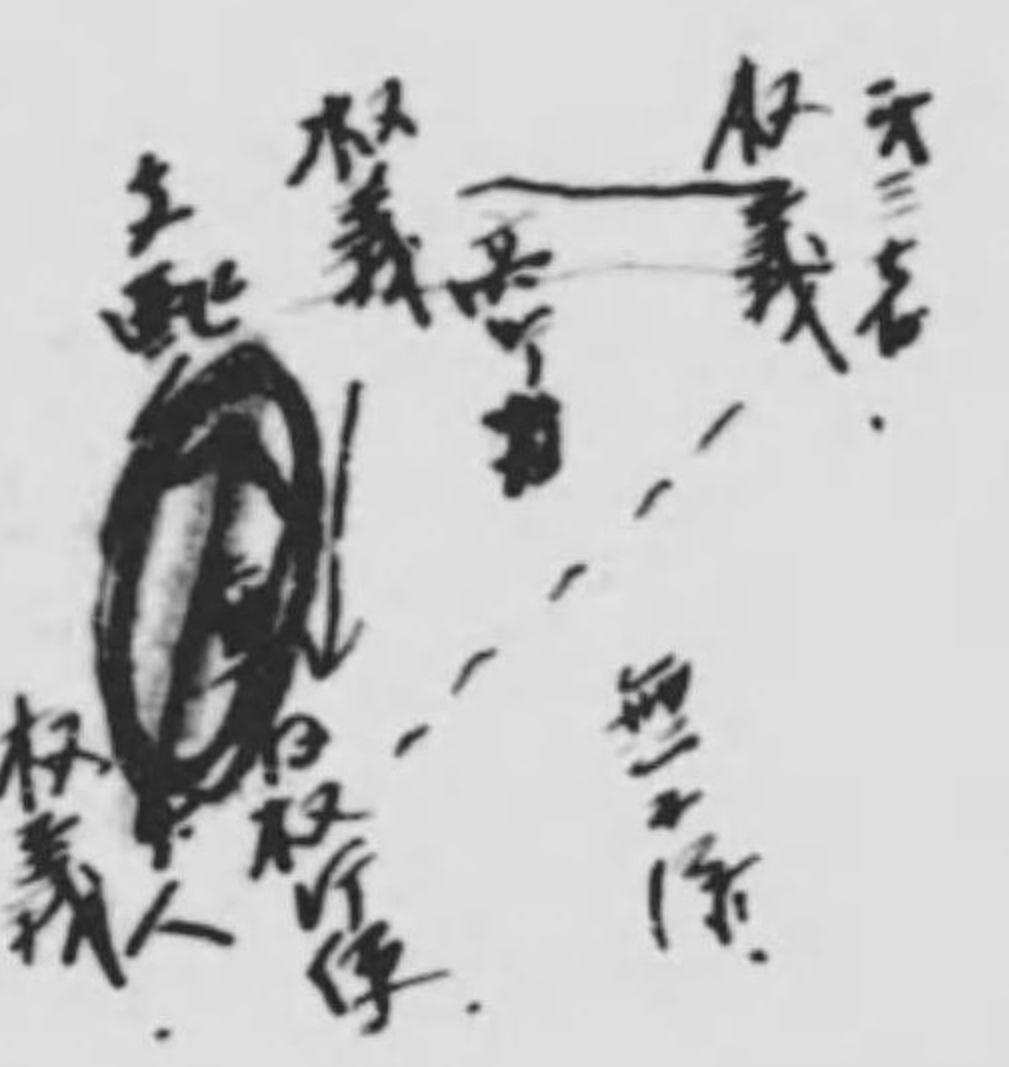
ヲモ禁止セルヲ以テ主人ノ許諾アルニ非サレハ會社ヲ代表シ又ハ業務ヲ執行  
ル權利ヲ有セサル無限責任社員ト爲ルコトヲ得サルカ也

(二) 支配人カ上述セル禁止ニ背反シテ商行為ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社  
員ト爲リタルトキハ主人ハ支配人トノ間ヲ定ムル關係ニ基キ一般規定ニ依リ  
損害賠償ノ請求等ヲ爲スコトヲ得ヘキモ支配人カ自己ノ爲メニ商行為ヲ爲シ  
タル場合ニ付テハ特別規定アリテ主人ハ之ヲ以テ自己ノ爲メニ爲シタルモノ  
ト看做スコトヲ得(二二條二項主人ノ此權利ヲ稱シテ**奪取權**又ハ**進入權** (Antritts-  
nungsrecht, Eintrittsrecht)ト謂フ(註二九)蓋シ主人ニ損害賠償ノ請求權ヲ認ムルモ損  
害ノ證明ハ困難ナルコト多ク其保護十分ナラス且支配人カ主人ノ得意先ト行  
爲ヲ爲シタル場合ノ如キ奪取權ニ依リ主人ノ利益ヲ維持スルコト最モ恰當ナ  
レハナリ

[註二九] 我邦學者下ナル語ヲ用フルモノ多シ此譯語ハ余ノ創出セル所ナルモ問屋ノ介  
入權 (Selbstvertrittsrecht)ト紛シキヲ以テ之ヲ改メタリ而シテ奪取權ノ制度ハ亦獨商法ノ認ムル  
所ニシテ獨商法ハ商業使用人カ他人ノ爲メニ商行為ヲ爲シタル場合ニ於テモ其他人ヨリ得  
ヘキ報酬ニ付キ奪取權ヲ認メタリ

商行為禁止  
違反ノ場合  
ニ於ケル救  
濟

入  
取  
權  
進  
入  
權  
(進  
入  
權)



無  
取  
權  
進  
入  
權  
進  
入  
權  
進  
入  
權

奪取權ハ損害賠償請求權ニ代ヘテ之ヲ行使スヘキモノナルヤ否ヤ換言スレ  
ハ此二權ハ重疊的ノモノナルヤ又ハ選擇的ノモノナルヤニ付テハ多少ノ疑ナ  
ク

本論 商業使用人 支配人

主人ノ奪取權ハ支配人ニ對シ特定行為ヲ自己ノ爲メニ爲シタルモノト看做  
スヘキ旨ノ意思表示ヲ爲スニ因リテ之ヲ行使スルコトヲ得ヘク(註三〇)其結果  
ハ其行為ニ關シ主人ト支配人トノ間ノ委任關係ヲ生シ支配人ハ其行為ノ效果  
ヲ主人ニ歸屬セシムル義務ヲ負フ故ニ支配人ハ其行為ニ因リテ取得シタル權  
利ヲ主人ニ移轉シ金錢其他ノ物ヲ引渡ス義務ヲ負フト同時ニ主人ハ支配人ニ  
對シ其支出シタル費用ヲ償還シ其負擔シタル債務ヲ辨濟スル義務ヲ負フヘシ  
然レドモ奪取權ノ行使ニ因リ主人ト行為ノ相手方トノ直接法律關係ヲ發生ス  
ヘキ理ナク主人ハ直接之ニ對シ權利ヲ取得セザルト同時ニ義務ヲ負擔スルコ  
トナキナリ換言スレバ奪取權ノ行使ニ因リ間接代理ノアリタルト同様ノ效果  
ヲ生スルモ無權代理ノ追認アリタル效果(民法一一三條以下)ヲ生スルコトナシ  
也(註三〇)奪取權ハ單獨行為ニ因リテ之ヲ行使スルコトヲ得ヘク(A. M. Mahnke in D. J. Z. 1905 S.  
1118)其結果法律關係ヲ創設スルヲ以テ奪取權ハ即チ所謂形成權拙著人法人及物七三頁)ノ一  
ナリ債權ノ觀念ヲ以テ之ヲ説明スルハ誤ナリ

キヲ得ス通説ハ選擇的ノモノトスト雖モ奪取權ノ行使ノ結果仍ホ損害アル場合ニ於テハ條理上ニ於テモ將タ法文上ニ於テモ之カ賠償ヲ請求スルコトヲ得ストスヘキ根據アルコトナシ(註三一)

〔註三一〕余ハ從來選擇的ノモノトセルモ商法原論二七一頁青木博士商法總論二八三頁竹田博士商法總論四五九頁以下須賀氏法律評論全集三卷四〇五頁以下論文等之ヲ改説セムトス(同說片山博士商法總論二九五頁西本氏商法總論二九八頁田中氏法學新報二八卷一〇號八三頁以下)立法例トシテハ獨舊商法五六條我舊商法(五〇條等ハ重疊主義ニ依リ獨新商法六〇條)ハ之ニ反セリ

奪取權ハ主人カ其行爲ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ(三二條三項)此期間ハ所謂法定期間ニシテ時効期間ニ非サルヲ以テ時効ノ停止中斷等ノ原因ニ因リテ影響セララルコトナシ

(三) 支配人ノ商行爲禁止義務ニ關スル規定ハ任意規定ニシテ主人ノ許諾アルトキハ支配人ニ此義務ナキハ法文上明ナリ而シテ許諾ハ明示ノ外默示ノ場合モアリ得ヘキコト勿論ナリ狹義ノ商業使用人タル支配人ハ通常此義務ヲ負

主人ノ許諾アル場合

併し之ヲ改定す。許諾ハ明示ト默示ト共ニ可ナシ。

一、債權ノ行使  
委任ノ係  
の自己ノ利益ニ關スル人ノ義務ナシ

支配人以外ノ商業使用人

番頭又ハ手代

番頭手代ハ法律上區別ナシ  
名稱ニ依リテ

一、主人ノ代理人  
番頭手代ノ意義

二、小商人ノ代理人  
通常狹義ノ商業使用人ナリ

フヘキモ委任ニ依ル支配人ハ事情ニ依リ主人ノ許諾ニ因リテ義務ヲ免レタルモノト觀ルヘキコト多カルヘク又自己ノ爲メニスル支配人ハ通常此義務ヲ負ハサルモノト觀ルヘキモノタルヘシ尙ホ支配人以外ノ商業使用人ハ當然ハ第三十二條ノ適用ナキモ之ニ對シテモ契約ニ因リ同一義務ヲ負ハシムルコトヲ得ヘシ

### 第三節 支配人以外ノ商業使用人

(一) 商人ハ番頭又ハ手代ヲ選任シ其營業ニ關スル或種類又ハ特定ノ事項ヲ委任スルコトヲ得番頭又ハ手代ハ其委任ヲ受ケタル事項ニ關シ一切ノ行爲ヲ爲ス權利ヲ有ス(三三條)番頭ト手代トノ間ニハ法律上ハ區別ナシ單ニ主人ノ附屬名稱上ノ區別ナリ

(イ) 番頭又ハ手代ハ商人ノ代理人ナリ小商人ト雖モ之ヲ選任スルコトヲ妨ケス而シテ番頭又ハ手代ハ通常狹義ノ商業使用人トシテ主人ト雇傭關係ニ立ツ者ナルモ必スシモ之ニ限定セラレサルコト及ヒ其自然人タルヲ要スル

本論 商業使用人 支配人以外ノ商業使用人

選頭手代ノ  
任及ヒ其  
任

選任者、主人、支配人、  
方式、明示、默示、

番頭手代ノ選任、如何、

解任、一方の意思表示、  
消滅原因、主人、死亡、破産、

代理人、死亡、破産、消滅、

登記、

コトハ支配人ニ付テ述ヘタル所ト同シ

(ロ) 番頭又ハ手代ハ主人自身ノ外支配人亦之ヲ選任スルコトヲ得ヘシ(三〇  
條二項)其選任ハ明示又ハ默示ノ授權契約ニ因ルモノニシテ番頭又ハ手代ナ  
ル名稱ヲ以テスルコトハ要件ニ非ス會社其他大規模ノ營業ニ在リテハ寧ロ  
課長掛長主任等ノ名稱ヲ用フルコト多カルヘシ

番頭手代ノ解任又ハ辭任カ一方の意思表示ニ因ルヘキコト及ヒ其代理權カ  
主人ノ破産、營業ノ廢止若クハ讓渡又ハ番頭手代ノ死亡、破産若クハ禁治產ノ  
宣告ニ因リテ消滅スヘキコト支配人ニ付テ説明セル所ト同シ然レトモ會社  
解散ノ場合ニ於テ必ス消滅スルモノト解スヘカラス其委任ヲ受ケタル種類  
ノ事項カ清算ノ範圍ニ屬スルモノナルトキハ其代理權ハ消滅セサルヘシ  
番頭手代ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ登記事項ニ非サルヲ以テ之ヲ登記ス  
ルコトヲ得ヘカラス

(ハ) 番頭手代ハ或種類又ハ特定ノ事項ニ關スル代理權ヲ有シ(註一)其事項ニ  
關シ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス(註二)然レトモ主人ハ有效ニ之ヲ制限スル

一、或種類、或特定ノ事項ニ關シ一切ノ行爲ヲ爲ス

二、主人ノ制限

對シ第三者關係、民法二〇条

番頭手代ノ  
代理權

コトヲ得ヘシ但第三者カ其權限アリト信スヘキ正當ノ事由アルトキハ主人  
ハ番頭手代ノ爲シタル行爲ニ付キ其責ニ任スヘキコトアルヘシ(民法一一〇條)

(註一)

番頭手代ハ或種類ノ事項ニ關スル代理權 Spezialhandlungsvollmacht, Gattungsvollmacht)又ハ特定  
ノ事項ニ關スル代理權(Einzelschäftshandlungsvollmacht, Individualvollmacht)ヲ有スル者ニシテ主人カ

營業全部ニ關スル代理權(Generallandlungsvollmacht)ヲ授與スルハ(註三)隨意ナルモ此場合ニハ

第三十三條第二項ノ適用ナク番頭手代カ營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ストノ推

定ヲ生ズルモノト解ス(反對竹田博士商法總論四六二頁)

(註二)

番頭手代ハ委任ヲ受ケタル限リニ關シ生スヘキ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルコトヲ  
以テ其代理權ノ特色トス或種類ノ行爲又ハ特定ノ行爲ニ限リテ代理權ヲ授與セラレタルニ過

キサル者ハ番頭手代ニ非ス

支配人  
共同代理權ヲ授与スル可キ  
共同代理權ヲ授与スル可キ  
共同代理權ヲ授与スル可キ  
共同代理權ヲ授与スル可キ

支配人、番  
頭又ハ手代  
非サル使  
用者

番頭手代ノ代理權ヲ數人ニ共同的ニ授與スルコトハ妨クル所ニ非ス此場合  
ニ付テハ大體ニ於テ共同支配ニ付テ説明シタル所ヲ應用スルコトヲ得ヘシ  
(二) 支配人、番頭又ハ手代ニ非サル使用人ハ主人ニ代ハリテ法律行爲ヲ爲ス  
限ヲ有セサルモノト推定ス(三四條(註三)然レトモ主人ハ明示又ハ默示ノ授權  
契約ニ因リ之ニ代理權ヲ授與スルコトヲ妨ケサルハ勿論ニシテ實際上ハ主人

本論 商業使用人 支配人以外ノ商業使用人



カ或種類又ハ特定ノ行為ニ付キ代理權ヲ授與スル場合甚多カルヘシ(註四)

(註三) 此規定ノ適用ニ付テハ第一節註一ニテ参照スヘシ

(註四) 主人カ支配人番頭又ハ手代ニ非サル使用人ニ代理權ヲ授與シタル場合ニ於テハ其者ハ

其代理ヲ許サレタル行為ノミチヲ爲ス權限ヲ有ス商法第二百六十七條ハ商行為ノ受任者ハ委

任ノ本旨ニ反セサル範圍内ニ於テ委任ヲ受ケサル行為ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ定ムルモ此

規定ハ代理ニ關スルモノニ非サレ故ニ之ニ依リテ授權セラレタル行為以外ノ行為ヲ爲ス

コトヲ得ヘカラス(拙著商行為法六〇頁反對)竹田博士商法總論四六五頁主人カ或種類又ハ特

定事項ニ關シ一切ノ行為ヲ爲ス權限ヲ授與シタルトキハ其者ハ番頭又ハ手代ト爲ルヘシ

代理商

### 第九章 代理商

代理商ハ特定ノ商人ノ補助人トシテ其爲メニ商行為ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス

コトヲ業トスル商人ナリ商法ハ其特定ノ商人ノ補助人タル點ヨリ觀察シテ總

則編中商業使用人ノ章ニ次テ其規定ヲ爲シタルモノナリ

代理商ノ制度ハ比較的新シキモノニシテ之ニ關シ詳細ナル規定ヲ設ケタル

ハ獨新商法ヲ以テ嚆矢トス獨逸ニ於テハ從來代理商(Agent)ナル語ヲ存セシモ

代理商ニ關  
スル法制

ニシテ是トノ關係  
三條ニ掲グ  
手代トシテ  
手代トシテ

其意義甚廣汎ニシテ範圍明確ナラス獨舊商法第一章案ハ之ニ關スル規定ヲ爲

セルモ第二章案ハ代理商ノ意義不明ナリトノ理由ニ因リテ之ヲ削除セリ佛ノ

agent d'affaires 伊ノ agente 英ノ agent 等ノ諸語ノ意義亦同ク茫漠タルヲ免レス我

舊商法ハ代辨人ナルモノヲ認メタルモ(四〇六條以下)新法ノ代理商トハ大ニ其

實質ヲ異ニセルモノナリ即チ代辨人ニハ常囑的ノモノト然ラサルモノトアリ

常囑的ノ代辨人ハ特定ノ營業者ノ爲メニ代理スル者ニシテ代理商ニ類似スル

モ然モ代理商ノ如ク商行為ノ媒介ヲ爲ス者ヲ包含セス又常囑ニ非サル代辨人

ハ臨時ニ種種ノ代理ヲ引受クル者ニシテ代理商ニ該當セス新商法ハ主トシテ

獨新商法案ニ倣ヒテ代理商ヲ規定セルモノニシテ二法ノ定メタル代理商ノ意

義ハ殆ト同一ナリ

參考書— Immerwahr, Das Recht des Handlungsagenten, Jacusiel, Das Recht der Agen-

ten, Mäkler und Kommissionär, 1. Heft, Das Recht der Agenten; Albrecht-Tentler,

Das Recht der Agenten nach deutschem Handelsrecht; Wüstendörfer in Z. f. H. R. 58 S. 11

8 ff.

代理商ノ意

商人ノ爲メニスルコト

小商人モリ

民事代理商代理商非人

商行爲ノ代理又ハ媒介チ爲スルコト

a. 銀行代理商  
b. 媒介代理商  
c. 問屋代理商

### 第一節 代理商ノ意義

代理商(Handlungsagent)トハ使用人ニ非スシテ一定ノ商人ノ爲メニ平常其營業ノ部類ニ屬スル商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者ヲ謂フ(三六條)

(一) 代理商ハ商人ノ爲メニ代理又ハ媒介ヲ爲ス者タルコトヲ要ス故ニ商人ニ非サル者例ヘハ相互保險會社又ハ農業者漁業者鑛業者等ノ補助人ト爲リテ代理又ハ媒介ヲ爲ス者所謂民事代理商(Nivilagent)ハ縱令代理商又ハ代理店等ノ名稱ヲ有スルコトアルモ商法上ノ代理商ニ非ス然レトモ苟モ商人ノ爲メニスル以上ハ小商人ノ補助人タル者ト雖モ亦代理商タルコトヲ得ヘシ

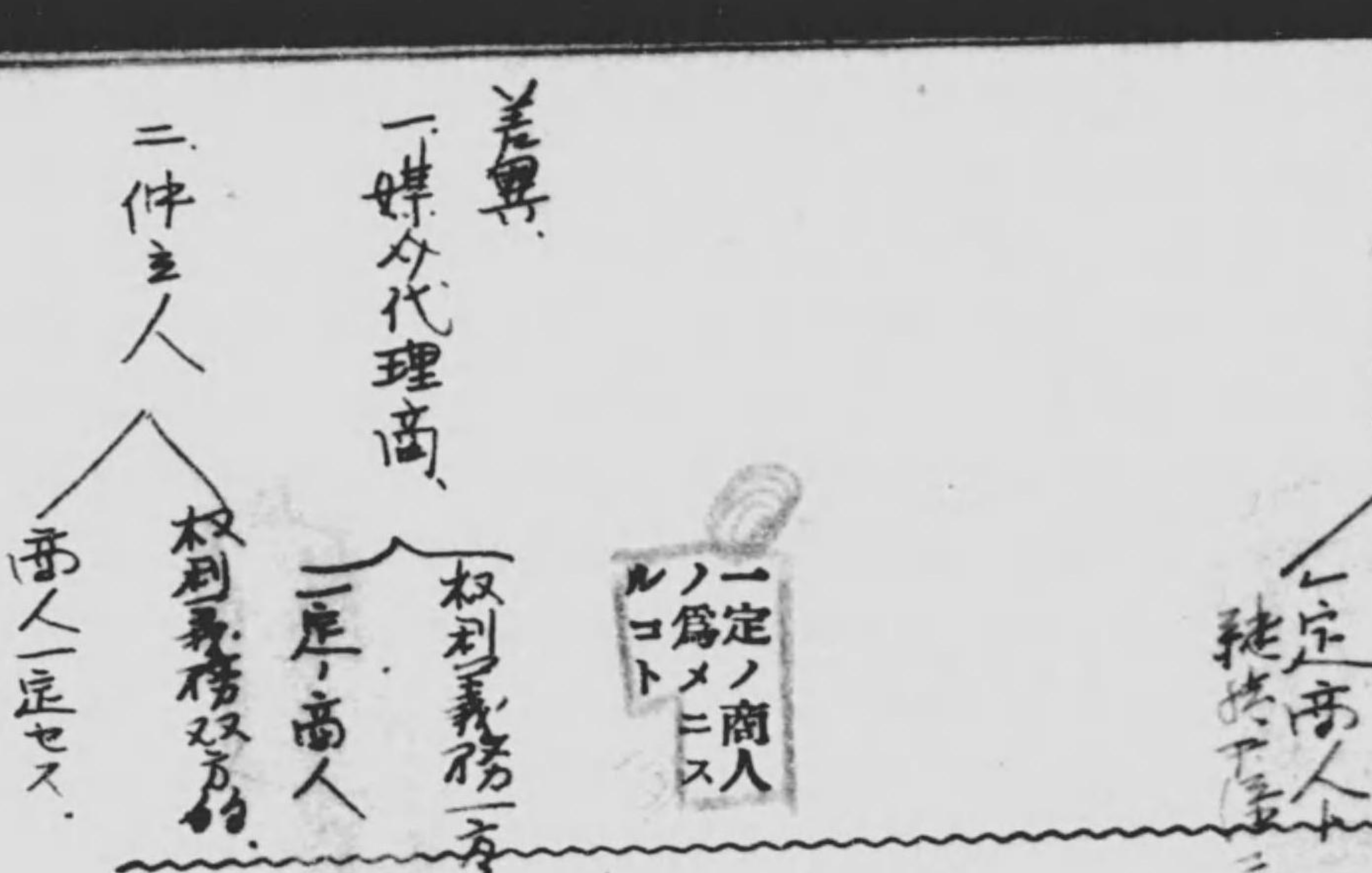
(二) 代理商ハ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者タルコトヲ要ス故ニ代理商ニハ商行爲ノ代理ヲ爲ス者所謂締約代理商(Abschlussagent)ト商行爲ノ媒介ヲ爲ス者所謂媒介代理商(Vermittlungsagent)トアリ尙ホ其代理ト媒介トヲ併セ爲ス者アルコトヲ妨ケサルハ勿論ナリ而シテハ相手方ト契約ヲ締結スル點ニ於テ問屋又ハ運送取扱人ト類似スト雖モ問屋又ハ運送取扱人ハ所謂間接

差算

一 締約代理商 本人ノ爲メニ

二 問屋取扱人 自己ノ爲メニ

三 取次代理商 自己ノ爲メニ



代理ノ關係ニ立チ自己ノ名ヲ以テ委託者ノ爲メニ行爲ヲ爲ス者ナルモ代理商ハ委託者ノ代理人トシテ委託者ノ名ヲ以テ行爲ヲ爲ス者ナル點ニ於テ之ト異リ(三一)

第三者ニ對シ自己ノ名ヲ以テ行爲ヲ爲ス點ニ於テ問屋ニ類スルモ一定ノ商人ト稱シテ關係ニ立チ其委託ヲ受ケ之ヲ補助スル點ニ於テ代理商ニ類スル補助人アリ(所謂媒介代理商Kommissionssagant)此種ノ補助人ハ問屋ト同ク取次ニ關スル行爲ヲ業トスル商人タルヘキ性質上問屋ニ關スル規定ノ適用ヲ受ケス寧ロ其委託者トノ間ノ内部關係ニ付テハ代理商ニ關スル規定ノ類推適用ヲ受ケヘキコト多カルヘシ(Witendorf a. a. O. S. 133; Staub 2 84 Ann. 8; Weiland S. 354; R. G. 63 S. 37)

(三) 代理商ハ一定ノ商人ノ爲メニ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者タルコトヲ要ス其一定ノ商人ノ補助人タル點ニ於テ問屋仲立人等ノ獨立ノ補助人ト異リ媒介代理商ハ商行爲ノ媒介ヲ爲ス點ニ於テ仲立人ト類似スト雖モ仲立人ハ廣ク一般商人ノ爲メニ媒介ヲ爲シ一定ノ商人ノ爲メニ之ヲ爲ス者ニ非ス從テ仲立人カ商行爲ノ媒介ヲ爲ストキハ其雙方ノ當事者ニ對シ同様ノ義務ヲ負フト同時ニ雙方ヨリ報酬ヲ請求スルコトヲ得ヘキモ拙著商行爲法一六四頁以

本論 代理商 代理商ノ意義

下) 代理商ハ専ラ委託者ノ爲メニ媒介ヲ爲ス者ニシテ委託者ニ對シテノミ義務ヲ負ヒ且權利ヲ有スルモノタリ以テ二者間ニ差異アルコトヲ知ルヘシ

平常一定ノ商人ノ爲メニ  
代理商ニ定メ商人  
継続的ナルト  
商人ノ爲メニ  
非継続的ナルト  
商人ノ爲メニ  
代理商ニ定メ商人  
継続的ナルト  
商人ノ爲メニ  
非継続的ナルト

(四) 代理商ハ一定ノ商人ノ爲メニ平常其營業ノ部類ニ屬スル商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者タルコトヲ要ス換言スレハ一定ノ商人ト繼續セル關係ニ立テテ之カ爲メニ代理又ハ媒介ヲ爲スコトヲ要ス故ニ廣ク一般商人ノ爲メニ又ハ臨時一定ノ商人ノ爲メニ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者(所謂臨時代理商 *Legenheitsagent*) ハ商法上ノ代理商ニ非ス(註二)

(註二) 此種ノ補助人ハ代理商ニ非サルモ商行爲ノ代理又ハ媒介ノ引受ヲ業トスル者ナルトキハ商法上ノ商人タルヘシ(四條二六四條一一號一二號)而シテ其媒介ヲ爲ス者ハ仲立人ノ如ク行爲ノ當事者雙方ニ對シ權利義務ヲ有セス專ラ委託者ニ對シテノミ之ヲ有スルトキハ純然タル仲立人ニ非サルナリ(竹田博士商法總論四六九頁註一參照)

(五) 代理商ハ使用人ニ非サルモノタルコトヲ要ス使用人ニ非ストハ其獨立ノ補助人タルコトヲ表スルモノニシテ即チ代理商カ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ引受クルコトヲ業トスルニ因リ一個獨立ノ商人タルコトヲ謂フニ外ナラス(四條二六四條一一號一二號)(註三)

使用人ニ非サルコト  
代理商  
獨立補助人  
其地者

(註三) 獨商法第八十四條モ亦使用人ニ非スシテ「ohne als Handlungsgehilfe angestellt zu sein」ナル語ヲ用フルモ法律上精確ナル文章ニ非ス(Staub 284 Anm. 4)第三十六條ハ宜シク之ヲ改メ「代理商トハ一定ノ商人ノ爲メニ平常其營業ノ部類ニ屬スル商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲スコトヲ引受クルヲ業トスル者ヲ謂フ」ト爲スヘシ而シテ獨逸ニ於テハ代理商ノ獨立ノ商人タルコトニ付テハ疑ヲ挾ム者ナキモ我商法ノ代理商ニ付テハ青山博士(商法總則二四七頁以下、商法總論三五版二〇二頁)ハ之ヲ商人ニ非スト解セリ然レトモ通説ハ之ニ反セルヲ以テ茲ニ駁論セス(拙著商法原論二七九頁以下參照)

代理商ハ一個獨立ノ商人タルヲ以テ之ニ關スル特別規定ノ外商人ニ關スル一般規定ノ適用アリ其小商人タル場合ノ外ハ商業登記、商號及ヒ商業帳簿ニ關スル規定ノ適用ヲ受クヘク其選任スル使用人ハ即チ商業使用人タリ又代理商ハ之ヲ自然人ニ限定スヘキ理由ナキヲ以テ法人タルコトアルモノト解スヘシ(Vergl. Staub § 92 Anm. 11a) 是レ亦代理商カ使用人ト異ル一點ナリ

代理商ハ獨立ノ商人ニシテ使用人ニ非サルモ一定ノ商人ノ補助人タル爲メ其商人ノ使用人ト區別スルニ困難ナル實際上ノ場合ナキニ非ス獨新商法參考書ハ其間ノ區別ノ標準ヲ示シ(一)使用人ハ通常一定ノ給料ヲ受クル者ナレトモ

代理商ト使用人ト區別

小商人  
法人ナルモ可ナリ

給料

市人唯一ノ人  
営業所ノ異ナリ  
費用負担

代理商ト本人トノ間ノ關係

代理商契約性質

準委任  
法律行為  
法律行為

代理商ハ各個ノ行為ニ付テ報酬ヲ受クルニ過キササルヲ常トス(二)使用人ハ通常一定ノ商人ニ使用セララルル者ナレトモ代理商ハ屢數人ノ商人ノ爲メニ代理又ハ媒介ヲ爲スコトアリ(三)代理商ハ通常本人ト異レル營業所ニ於テ其業務ヲ營ム者ナレトモ使用人ハ主人ノ營業所ニ於テ業務ニ従事スルヲ常トス(四)代理商ハ通常自ラ其營業上ノ費用ヲ負擔スル者ナレトモ使用人ハ主人ノ業務ニ關シ自ラ費用ヲ負擔セサルヲ常トスト云ヘリ(Denkschrift S. 73)

(六) 代理商ト本人トノ間ノ關係ハ其間ノ契約ノ定ムル所ナリ此契約ハ學者之ヲ**代理商契約** (Agenturvertrag)ト稱ス代理商契約ノ法律上ノ性質ニ付テハ獨逸ニ於テハ從來委任說、請負說、雇傭說及ヒ一種獨立種類ノ契約說ノ四說アリタルモ其新民法ノ解釋トシテハ雇傭ナリトスルヲ通說トス(竹田博士商法總論四七四頁以下參照)然レトモ**我國法ノ解釋**トシテハ商行為ノ代理ノ委託ハ即チ法律行為ノ委託ニシテ又商行為ノ媒介ノ委託ハ即チ法律行為ニ非サル事務ノ委託ナルヲ以テ代理商契約ハ委任及ヒ準委任ノ一種ニシテ委任ニ關スル規定ノ適用ヲ受クヘキモノト解スルヲ正當トシ(民法六四三條、六五六條)復タ異說アルコ

代理商契約ハ委任ノ一種ニシテ代理商ト本人トノ間ニ委任ノ規定ノ適用アルヘキモノト解スルヲ正當トシ(民法六四三條、六五六條)復タ異說アルコトナシ

代理商ノ義務

一般規定ノ適用

原則  
委任規定ニ適用スルニ當リテ  
契約ノ性質ニ依リテ

### 第二節 代理商ノ義務

代理商契約ハ委任ノ一種ナルヲ以テ契約ニ別段ノ定ナキ限り商法商慣習法及ヒ民法中委任ニ關スル規定ノ適用アリ代理商カ本人ノ爲メニ委託事務ヲ處理スルニ當リテ爲スヘキ注意ノ程度竝ニ物品引渡及ヒ權利移轉ノ義務ニ付テハ民法第六百四十四條乃至第六百四十七條ノ規定ノ適用アルヘキモ其說明ハ

民法第四百三、  
二、三七、

之ヲ省略シ茲ニハ商法カ代理商ノ義務ニ關シテ特ニ設ケタル規定ニ付キ叙述  
スル所アルヘシ

(一) 代理商カ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク本人ニ對シ  
其通知ヲ發スルコトヲ要ス(三七條)蓋シ民法第六百四十五條ノ規定ニ依レハ受  
任者ハ委託者ノ請求アルトキハ何時ニテモ委任事務處理ノ狀況ヲ報告シ又委  
任終了ノ後ハ遲滯ナク其顛末ヲ報告スルコトヲ要スルモノニシテ此規定ハ代  
理商ニモ適用アレトモ代理商ハ本人ト繼續的ノ關係ニ立ツ者ニシテ(個個ノ商  
行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲スニ因リ委任ノ終了ヲ生スルモノニ非サルカ故ニ此  
規定ノ適用ヲ以テ足レリトセス商法ハ別ニ規定ヲ設ケ代理商ニ負ハシムルニ  
個個ノ代理又ハ媒介ニ付キ通知ヲ發スル義務ヲ以テセルナリ而シテ此規定ニ  
依リ代理商ハ遲滯ナク本人ニ對シ通知ヲ發スル義務ヲ負フニ過キササルヲ以テ  
善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其通知ヲ發シタル以上ハ不著又ハ延著ニ付テハ  
責ニ任セサルモノタリ

(二) 代理商ハ本人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ本人ノ營

営業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任  
社員ト爲ルコトヲ得ス(三八條一項)此規定ハ會社ノ無限責任社員又ハ取締役ニ  
對スル第六十條又ハ第七十五條ト同ク所謂競爭業禁止(Konkurrenzverbot)ヲ定  
メタルモノニシテ(註一)代理商カ恣ニ本人ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲  
シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許ストキハ  
本人トノ間ニ利害ノ衝突ヲ生スル虞アルヲ以テ之ヲ防止スル爲メニ制限ヲ設  
ケタルモノナリ(註二)而シテ此規定ノ適用ニ依リ代理商ハ本人ノ營業ノ部類  
ニ屬スル商行爲ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ自ラ本人ト同種ノ營業ヲ爲スコト  
ヲ得サルハ勿論同種ノ營業ニ付キ他人ノ代理人トシテ行爲ヲ爲スコトヲ得  
ヘカラス(註三)又營業トセス個個的ニ本人ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲  
スコトヲ得ヘカラス然レトモ媒介ニ付テハ制限ナキヲ以テ特約ナキ限り本  
人ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ニ付キ他人ノ爲メニ媒介ヲ爲スコトヲ妨ケサ  
ルヘシ

業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任  
社員ト爲ルコトヲ得ス(三八條一項)此規定ハ會社ノ無限責任社員又ハ取締役ニ  
對スル第六十條又ハ第七十五條ト同ク所謂競爭業禁止(Konkurrenzverbot)ヲ定  
メタルモノニシテ(註一)代理商カ恣ニ本人ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲  
シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許ストキハ  
本人トノ間ニ利害ノ衝突ヲ生スル虞アルヲ以テ之ヲ防止スル爲メニ制限ヲ設  
ケタルモノナリ(註二)而シテ此規定ノ適用ニ依リ代理商ハ本人ノ營業ノ部類  
ニ屬スル商行爲ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ自ラ本人ト同種ノ營業ヲ爲スコト  
ヲ得サルハ勿論同種ノ營業ニ付キ他人ノ代理人トシテ行爲ヲ爲スコトヲ得  
ヘカラス(註三)又營業トセス個個的ニ本人ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲  
スコトヲ得ヘカラス然レトモ媒介ニ付テハ制限ナキヲ以テ特約ナキ限り本  
人ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ニ付キ他人ノ爲メニ媒介ヲ爲スコトヲ妨ケサ  
ルヘシ

(註一) 獨商法ハ代理商ニ付テハ競爭業禁止ヲ規定セス然レトモ代理商カ通常ノ商人タルノ注

意ヲ以テ本人ノ利益ヲ圖ルヘキ義務ヲ負フ結果トシテ直接本人ノ利益ヲ害スヘキ競争業ヲ營ムコトヲ得サルモノナリ (Staub 85 Ann. 23)

競争業禁止ノ規定カ支配人ノ商行為禁止ニ關スル第三十二條ト趣旨ヲ異ニスルハ既述セル所ナリ(前章第二節第四參照)即チ代理商ハ支配人ノ如ク一切ノ商行為ヲ爲スコトヲ禁止セラレス本人ノ營業ノ部類ニ屬セサル商行為ハ自己ノ爲メニスルト他人ノ爲メニスルトトテ間ハス營業トシテ爲スト個別的ニ爲ストトテ分タス之ヲ爲スコトヲ得ヘシ又支配人ノ如ク一般ニ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ禁止セラレス本人ト異種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員タルコトヲ妨ケサルナリ

故ニ代理商ハ本人ト同種ノ營業ヲ目的トスル商人ノ使用人會社理事役員又ハ總代理商トシテ其商人ノ爲メニ行為ヲ爲スコトヲ得サルヘキトモ代理行為ヲ爲ササル以上ハ使用人又ハ取締役タルモ妨ナシト解ササルヘカラス

損害賠償  
甲系ノ解除  
三八系ノ奪取權

代理商カ競争業禁止ニ違反シタルトキハ本人ハ民法ノ一般規定ニ依リ損害賠償ノ請求ヲ爲シ又ハ商法第四十條ノ規定ニ依リ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ヘキモ此他代理商カ自己ノ爲メニ本人ノ營業ノ部類ニ屬スル商行為ヲ爲シタル場合ニ於テハ本人ハ奪取權ヲ行使シ之ヲ自己ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得ヘク其奪取權ハ本人カ其行為ヲ知りタル時ヨリ二週間之ヲ行ハサ

ルトキ又ハ行為ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス(三八條二項、三二條二項、三項右ノ奪取權ニ關シテハ支配人ニ付キ述ヘタル所ト同キヲ以テ説明ヲ省略ス(前章第二節第四參照))

上叙セル競争業禁止ノ規定ハ勿論任意規定ニシテ本人ノ許諾アルトキハ代理商ハ其禁止ニ服スル義務ヲ負フコトナシ代理商カ本人ノ許諾ヲ得テ同種ノ營業ヲ目的トスル數人ノ商人ノ爲メニ代理ヲ爲ス場合ハ實際上多ク存スル所ナリ尙ホ本人ノ許諾ニ付テモ明示ノ外默示ノ許諾アルヘキコト支配人ニ付テ述ヘタルト同シ(前章第二節第四參照)

### 第三節 代理商ノ權利

代理商ノ本人ニ對シテ有スル權利ニ付テモ契約又ハ商慣習法ニ別段ノ定ナキ限りハ委任ニ關スル民法第六百四十八條乃至第六百五十條ノ規定ノ適用アルヘキ理ナレトモ代理商ハ商人ナルカ故ニ特約ナキモ其本人ノ爲メニ爲シタル行為ニ付キ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得ヘク(二七四條、民法六四八條一項)

本論 代理商ノ權利

代理商ノ權利

一般規定ノ適用

原則  
契約ノ高價  
民法六四八條

且通常其報酬ヲ以テ營業上ノ費用ヲ支辨シ特ニ委託事務ノ處理ニ因リテ生スル費用ノ前拂又ハ償還ヲ請求スル權利ヲ有セサルコト多カルヘシ(民法六四九條六五〇條參照)註一)

代理商ノ報酬ハ其代理又ハ媒介ヲ爲シタル行爲ノ取引金額ノ歩合ニ依リ定メラルル手數料(Provision)タルコト多カルヘシ所謂「コンミツシオン」是ナリ(獨商法八八條參照)然レトモ一定給料ノ支給又ハ利益ノ分配ヲ約スル場合ナキニ非サルヘシ

代理商ノ權利ニ關シテハ商法ハ其權利ヲ擔保スヘキ特別ノ留置權ニ付キ一條ノ規定ヲ爲スニ止マレリ即チ代理商ハ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因リテ生シタル債權ニ付キ本人ノ爲メニ占有スル物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラス(四一條)註二)

註二) 第四十一條ノ特別規定ハ代辦人ニ關スル舊商法第四百十八條ヲ襲踏セルモノニシテ獨商法ニハ之ニ該當スル規定ナシ

代理商ノ留置權ニ依リテ擔保セラルル債權ハ代理商カ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因リテ生シタルモノナルコトヲ要ス例ヘハ代理商ハ其代理又ハ媒介ヲ爲スニ當リテ支拂ヒタル立替金ノ償還請求權又ハ報酬ノ請求權

代理商ノ留置權

物ノ所有權歸屬  
ヲ同ス  
物債權ノ牽連ヲ同ス  
是有原因ヲ同ス

等ニ付テ此留置權ヲ行使スルコトヲ得ヘシ

代理商ノ留置權ハ代理商カ本人ノ爲メニ占有スル物又ハ有價證券ノ上ニ存ス苟モ本人ノ爲メニ占有スルモノタル以上ハ其本人ノ所有ニ屬スルト否ト又ハ債權ト其物若クハ有價證券トノ間ニ牽聯關係(Konnexität)アルト否トヲ分タス且其占有ノ原因如何ヲ問ハス之ヲ留置スルコトヲ得ヘシ但占有カ不法行爲ニ因リテ始マリタル場合ノミハ當然ノ例外ヲ爲スモノト解スヘシ

代理商ノ留置權ハ別段ノ意思表示アリタルトキハ發生スルコトナシ而シテ其意思表示カ明示タルノ外默示タルコトヲ得ヘキハ勿論ナリト雖モ單ニ本人カ留置權ノ發生ヲ欲セサル事情アルニ因リ其發生ヲ妨クヘキ理ナシ必スヤ特ニ留置權ヲ發生セシメサル趣旨ノ約束アルコトヲ要ス

上叙セル留置權ハ特別規定ニ依リ代理商ニ認メラレタルモノナルモ此他代理商ハ民法第二百九十五條以下ノ一般規定ニ依ル留置權及ヒ商法第二百八十四條ノ規定ニ依ル商人間ノ留置權(拙著商行爲法七九頁以下參照)ヲモ有スヘク代理商ハ其何レノ規定ニ依ルモ留置權ヲ行使スルコトヲ得ヘシ以下代理商ノ

民法上ノ留置權及ヒ商人間ノ留置權トノ關係





商人間ノ留置權トノ異

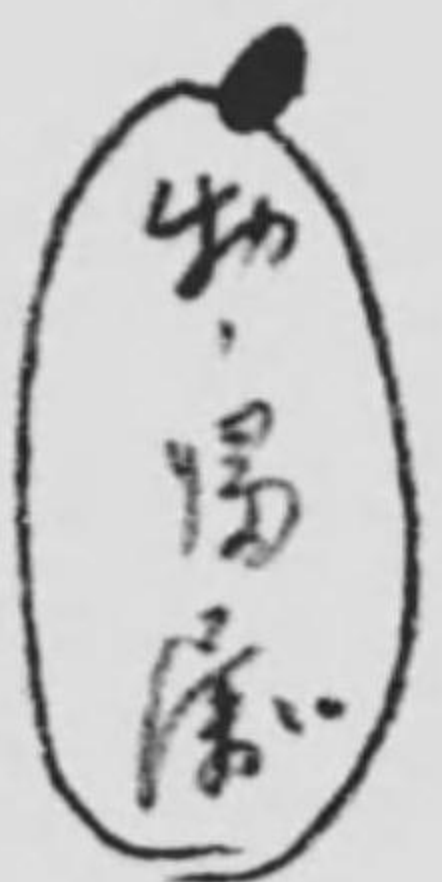
- 一、代理商ノ留置權ト同シ
- 二、物債權等並用傳不要
- 三、不發生持物ヲ決ム
- 三、留置權ニ付テハ債權者ノ債權ヲ得ル
- 二、異トス
- 代理商ノ留置權ハ商人間ノ留置權ニ異ナリ

ニ限リテハ留置物ニ付キ優先辨濟ヲ受クル効力ヲ生ス(破産法九三條)

商人間ノ留置權ニ付テハ第二百八十四條ハ商人間ニ於テ其雙方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタル債權カ辨濟期ニ在ルトキハ債權者ハ辨濟ヲ受クルマテ其債務者トノ間ニ於ケル商行爲ニ因リテ自己ノ占有ニ歸シタル債務者所有ノ物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラスト定ム之ヲ代理商ノ留置權ト比較スルニ債權ト留置物トノ間ノ牽聯關係ヲ必要トセサルコト留置權不發生ノ特約ヲ認ムルコト及ヒ留置權カ破産財團ニ對シ特別先取特權ト看做サルルコト(破産法九三條)ノ三點ニ付テハ二者相同シト雖モ左ノ三點ニ於テ代理商ノ留置權ハ商人間ノ留置權ヨリモ一層強力ナリ

(一) 商人間ノ留置權ハ民法上ノ留置權ト同ク擔保セラルヘキ債權カ辨濟期ニ在ルコトヲ要件トスルモ代理商ノ留置權ハ之ヲ要件トセス

(二) 商人間ノ留置權ハ留置セラルヘキ物又ハ有價證券カ債權者債務者間ノ商行爲ニ因リテ債權者ノ占有ニ歸シタルコトヲ要件トスルモ代理商ノ留置



留置權ノ效力  
 留置權ノ效力消滅原因  
 三者共ニ九六ニキル

例外  
 破産場合

代理商ノ權限

權ハ之ヲ要件トセサルコト民法上ノ留置權ト同シ(註五)

代理商ノ留置權ハ占有カ不法行爲ニ因リテ始マリタル場合ノ外發生スヘキコト民法上ノ留置權ト同様ナレトモ其占有ハ本人ノ爲メニスルコトヲ要件トスル點ニ於テ之ト異レリ民法上ノ留置權ハ何人ノ爲メニ占有スル物ノ上ニモ發生スヘキナリ

商人間ノ留置權ハ留置セラルヘキ物又ハ有價證券カ債權者ノ所有ニ屬スルコトヲ要件トスルモ代理商ノ留置權ハ之ヲ要件トセサルコト民法上ノ留置權ト同シ

代理商ノ留置權ノ成立要件ハ上述セル如ク民法上ノ留置權又ハ商人間ノ留置權ト異ルモ其留置權ノ效力及ヒ消滅原因ニ付テハ三者共ニ民法第二百九十六條乃至第三百二條ノ規定ノ適用アルモノニシテ全く同様ナルヲ以テ之カ說明ヲ民法ノ著書ニ讓ル但破産ノ場合ニ於テ民法上ノ留置權ト商法上ノ留置權トノ間ニ效力上ノ差異アルコト既述セル所ナリ

### 第四節 代理商ノ權限

本論 代理商 代理商ノ權限

代理権ノ有無

代理権ノ有無、範圍

締約代理、授権契約ニ依リ

媒介代理、授権契約ニ依リ

四七五

代理商契約、授権契約ニ依リ

物品販賣ノ委託ヲ受ケタル代理商ノ権限

代理商ノ代理權ハ本人トノ間ノ授權契約ニ因リテ生スルモノナルカ故ニ第一節末參照代理商カ代理權ヲ有スルヤ否ヤ及其代理權ノ範圍如何ハ授權契約ノ有無及其内容ニ依リテ決定セラルヘキ問題ナリ而シテ締約代理商ハ代理權ヲ有スル者ナルヲ以テ之ト本人トノ間ニ授權契約アルコトヲ要シ從テ代理ニ關スル民法及商法ノ一般規定ノ適用ヲ受クヘキモ媒介代理商ハ代理權ヲ有セズ從テ代理ニ關スル規定ノ適用ヲ受クヘキ者ニ非ス(註一)但媒介代理商ニ對シテ本行爲ニ付キ特ニ契約締結以外ノ事項ニ付キ代理權ヲ授與スルコトヲ妨ケス又個人行爲ニ付キ特ニ契約締結ノ代理權ヲ授與スルコトヲ妨ケサルハ勿論ナリ

註一 媒介代理商ニハ代理ノ規定ノ適用ナキヲ以テ本人ノ爲シタル行爲ノ効力カ意思ノ欠缺許欺強迫又ハ或事情ヲ知リタルコト若クハ之ヲ知ラサル過失アリタルコトニ因リ影響ヲ受クヘキ場合ニ於テ其事實ノ有無ハ本人ニ付テ定ムヘキモノニシテ代理商ニ付テ定ムヘキモノニ非ス(民法一〇一條參照)

代理商ノ權限ニ付テハ商法ハ一條ノ特別規定ヲ設ケ物品販賣ノ委託ヲ受ケタル代理商ハ賣買ノ目的物ノ瑕疵又ハ其數量ノ不足其他賣買ノ履行ニ關スル通知ヲ受クル權限ヲ有スルモノトス(三九條)蓋シ商人間ノ賣買ニ於テハ買主ハ

三九條  
物品販賣ノ委託ヲ受ケタル代理商ノ權限  
物品販賣ノ委託ヲ受ケタル代理商ノ權限  
物品販賣ノ委託ヲ受ケタル代理商ノ權限

運滯ナク受取リタル目的物ヲ検査シ之ニ瑕疵アルコト又ハ其數量ノ不足ナルコトヲ發見シタルトキハ直ニ賣主ニ對シ其通知ヲ發スルニ非サレハ救濟ヲ求ムル權利ヲ失フヘシ(二八八條)然ルニ物品販賣ノ委託ヲ受ケタル代理商カ此通知其他契約ノ履行ニ關スル通知ヲ受クル權限ヲ有スルヤ否ヤ各個ノ場合ノ事實問題ニ委ヌルトキハ買主ニ不便ヲ與フヘキヲ以テ商法ハ代理商ニ其通知ヲ受クル權限ヲ認メ賣買ノ敏活ヲ圖リタルモノナリ而シテ此規定ノ適用ハ物品販賣ノ委託ヲ受ケタル代理商ニ限ルヲ以テ物品販賣ノ媒介ノ委託ヲ受ケタル者ニ及ハス(註二)又物品トハ動産及ヒ有價證券ヲ謂ヒ不動産ヲ包含セサルモノト解スヘシ(拙著商行為法一七七頁參照)

註二 第三十九條ニ該當スル獨商法第八十六條ハ其適用ヲ物品販賣ノ委託ヲ受ケタル代理商ニ限定セス媒介ノ委託ヲ受ケタル者モ亦通知ヲ受クル權限ヲ有スルモノトセリ

物品販賣ノ委託ヲ受ケタル代理商ハ賣買ノ履行ニ關スル通知ヲ受クル權限ヲ有スルモ其通知ヲ爲ス權限ヲ有セス又賣買ノ履行ニ關スル通知ヲ受クル權限ヲ有スルニ止マルヲ以テ例ヘハ錯誤ニ因ル賣買ノ無效又ハ賣買ノ取消等其

履行ニ關セサル通知ヲ受クル權限ヲ有ササルナリ(註三)  
[註三] 授權契約ニ因リ特ニ是等ノ權限ヲ與フルハ固ヨリ妨ケス唯第三十九條ノ適用ニ依リテ然其權限ヲ有スルモノニ非スト謂フノミ

### 第五節 代理商ノ終任

代理商ノ終任  
一般規定ノ適用

一、代商  
死亡、破産、禁治産、成年、  
二、本人  
破産、禁治産、成年、  
代理商ノ代理權有テハ本人ノ死亡ニ依リテ消滅セサルモノトスルヲ以テ代理權ノ終任ニ關シテハ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得サルナリ

三、本人ノ死亡ハ民法第六百五十三條ニ依リテ委任終了ノ原因ナレトモ商法第二百六十八條ハ商行為ノ委任ニ因リテ代理權ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅セサルモノトスルヲ以テ代理權ノ終任ニ關シテハ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得サルナリ

代理商ト本人トノ間ノ關係ハ委任ナルヲ以テ一般規定ニ依リ委任終了ノ原因アルトキハ代理商ノ終任ヲ生スヘシ例ヘハ本人又ハ代理商ノ破産、代理商ノ死亡又ハ禁治産ノ宣告(民法六五三條[註一]及ヒ本人ノ營業ノ廢止又ハ讓渡等ノ如シ又代理商ノ終任ニ付テハ民法第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ適用アルヲ以テ終任ノ際ニ急迫ノ事情アルトキハ代理商又ハ其相續人若クハ法定代理人ハ仍ホ引續キ必要ナル處分ヲ爲ス義務アリ且終任ノ事由ハ相手方ニ通知シ又ハ相手方ヲ知リタルニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得サルナリ

[註一] 本人ノ死亡ハ民法第六百五十三條ニ依リテ委任終了ノ原因ナレトモ商法第二百六十八條ハ商行為ノ委任ニ因リテ代理權ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅セサルモノトスルヲ以テ代理權ノ終任ニ關シテハ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得サルナリ

委任終了ノ原因ナレトモ商法第二百六十八條ハ商行為ノ委任ニ因リテ代理權ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅セサルモノトスルヲ以テ代理權ノ終任ニ關シテハ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得サルナリ

終任代理商  
代理商契約之委任  
(代理權終上契約) 商三六八

代理商ノ終任ニ關シテハ商法ハ當事者ノ一方ノ解除ニ付キ一條ノ特別規定ヲ設ク即チ民法第六百五十一條ハ委任ハ各當事者ニ於テ何時ニテモ之ヲ解除スルコトヲ得ヘキモノトセルモ之ヲ代理商ニ適用スルトキハ被解除者ニ損害ヲ與フル虞アルヲ以テ商法第四十條ハ左ノ特別規定ヲ爲セリ

期間ノ定ナキトキ

代理商ノ終任ニ關シテハ商法ハ當事者ノ一方ノ解除ニ付キ一條ノ特別規定ヲ設ク即チ民法第六百五十一條ハ委任ハ各當事者ニ於テ何時ニテモ之ヲ解除スルコトヲ得ヘキモノトセルモ之ヲ代理商ニ適用スルトキハ被解除者ニ損害ヲ與フル虞アルヲ以テ商法第四十條ハ左ノ特別規定ヲ爲セリ  
(一) 當事者カ契約ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ二个月前ニ豫告ヲ爲シテ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得(四〇條一項)故ニ期間ヲ定メタルトキハ之ニ依ルヲ要シ其期間滿了前ニ解除スルコトヲ得ヘカラス(註三)

茲ニ所謂解除トハ民法第六百五十一條ノ解除ト同ク契約ノ効力ヲ初ヨリ消滅セシムルモノニ非スシテ單ニ將來ニ向テ消滅セシムルモノナルヲ以テ實ハ契約ノ申入ニ外ナラス(民法六五二條六二〇條)又此規定ニ依レハ二个月前ニ豫告ヲ爲スニ因リテ解除權ヲ生スルニ止リ更ニ解除ノ意思表示ヲ爲スコトヲ要スルカ如キモ實ハ然ラス二个月前ニ爲ス豫告カ即

本論 代理商 代理商ノ終任

長期間の有効  
短期間の全部無効トス

已ムコトヲ  
得サル事由  
アルトキ

氏、  
六二二、六二二、  
商  
四〇五、

己ムコトヲ得サル事由ノ意義ハ法律問題ナルヲ以テ上告ノ理由タルコトヲ得ヘシ其具  
海峽植民地法律適用  
要ナルヲ以テ上告ノ理由トナラズ

テ解約ノ申入自體ニシテ二个月后ニ於テ當然解約ノ効力ヲ生スルモノト解スヘシ是レ履備  
ノ解除ニ關スル民法第六百二十六條ノ所謂豫告ニ付キ民法學者ノ一致シテ採用セル見解ナ  
リ(梅博士民法要義六二六條横田博士債權法各論五六一頁末弘博士債權各論六八二頁鳩山博  
士日本債權法各論五四三頁石坂博士民法研究三卷三四八頁)尙ホ特ニ二个月以上ノ期間ヲ定  
メテ豫告ヲ爲スハ妨クル所ニ非スト解シテ可ナリ

(二) 當事者カ契約ノ期間ヲ定メタルト否トヲ問ハス已ムコトヲ得サル事由  
アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得(四〇條二項)故  
ニ此場合ノ解除ハ即時ニ其效力ヲ發生スヘシ而シテ所謂已ムコトヲ得サル事  
由トハ契約ヲ存續スルコトカ社會見解上著シク不當ナリト認ムヘキ事由ヲ謂  
フ(註四)例ヘハ代理商ノ不誠實、重患等ハ本人ニ解除權ヲ與フヘク本人ノ營業ノ  
重大ナル失敗、代理商ニ對スル債務ヲ全ク履行セサルコト等ハ代理商ニ解除權  
ヲ與フヘシ又已ムコトヲ得サル事由ニ因リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テ當事  
者ノ一方ニ過失アリタルトキハ相手方ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘキ  
モノト解スヘシ(民法六五二條、六二〇條)

已ムコトヲ得サル事由ノ意義ハ法律問題ナルヲ以テ上告ノ理由タルコトヲ得ヘシ其具

第四十條ニ  
反ルル特約  
ノ効力

強行規定ニ非ス  
互對特約ニ屬スル

例外  
↓  
民法九〇

體的ニ如何ナル事實が存在シタルヤハ事實問題ナルモ彼ト此トヲ混同スヘカラス

代理商契約ノ解除ニ關スル第四十條ハ強行規定ナルヤ否ヤニ付テハ多少ノ  
議論アリ得ヘキモ(註五)之ヲ強行規定ナリト解ササルヘカラス(理由)山室モ存セ  
サルヲ以テ契約ニ依リ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得ヘキモノト解スヘシ例ヘハ當  
事者カ不解除又ハ即時解除ヲ約シタルトキハ其特約ニ依ルヘキモノタリ但已  
ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テ仍ホ解除ヲ爲ササルヘキ旨ノ特約ハ公益  
ニ反スルヲ以テ其效力ヲ認ムヘカラス(民法九〇條)

(註五) 民法第六五一條ノ規定ニ反スル解除權拋棄ノ特約ノ效力ニ付テハ鳩山博士前掲六二三  
頁以下末弘博士前掲七七六頁及ヒ其引用スル學說判例ヲ參考スヘシ余ハ民法ノ解釋トシテ  
亦本文ニ述ヘタルト同様ノ意見ヲ有スル者ナリ

商法總論事項索引 (イロハ順)

イ (イ)

一 一方的商行爲…………… 七一  
 一般慣習法…………… 七八、八〇、九二  
 一人ノ數營業…………… 一一八、三八五  
 委託者…………… 四〇三

ハ

判例法…………… 八〇  
 廢業…………… 一一三  
 破産…………… 一一四  
 破産管財人…………… 一一四  
 番頭手代…………… 三五七、三六一、三六三、  
 三六五、三八一、三八九  
 三九七以下  
 意義…………… 三九七  
 選任及七解任…………… 三九八  
 代理權…………… 三九八

事項索引

半面的共同代表…………… 三八八

ニ

日記帳…………… 二七六、二八五以下  
 記載スヘキ事項…………… 二八六

ホ

法律ノ安定…………… 七六  
 法曹法…………… 八〇  
 法定代理人…………… 一二八以下  
 未成年者ニ代リテ商業ヲ營ム場合…………… 一三一  
 代理權ノ制限…………… 一三二  
 法人…………… 一三八  
 商業能力…………… 一三九  
 保佐人…………… 一三七  
 保險契約ノ包括移轉…………… 一七四

本店…………… 一九六、二〇七、二二七  
 補助簿…………… 二七六

ヘ

併合契約…………… 一八一  
 變更登記…………… 二〇七  
 「評價」評價方法「ハ」「ヒ」ニ收ム

ト

特別法…………… 九、二三、八五  
 特別財産…………… 一六七  
 得意先…………… 一六二、一六四、一七〇、  
 一八〇、一八四、三三五  
 同一市町村…………… 一八六、二五二  
 同一商號…………… 五二二以下  
 登記 (商業登記ヲ見ヨ)  
 登記事項…………… 二〇五、二二三

四二五



不遑及ノ原則……………五八

不正競争……………一二六、二五五

不完全規定……………二〇九、二八四

附屬の商行爲……………一一一、一七六

負擔……………一六二

分店……………一九七

復代理人……………三八一、三九〇

コ

公法人……………六九、一七七、一七八

商行爲……………六九

商業能力……………一四一

公共團體……………八九、一四四

公益法人……………一四六、一七七、一七八

公告……………二二〇、二二三、二三四以下

公債……………三二八

後見人……………一三六

小商人……………一五二以下、二三七

意義……………一五三

會社タル小商人……………一五七

效果……………一五八

小賣ノ取引……………二八八

固定財産……………二九七、三〇六以下

工

營業……………一〇六、一六一以下、二四九、二六八、三七八

意義……………一六一

法律上ノ性質……………一六五

特別財産ナリヤ……………一六七

營業終了行爲……………一一四、一一七

營業ノ單複……………一六六以下

區別ノ實用……………一一九

區別ノ標準……………一二〇

營業不可侵權……………一二六、一六六

營業ノ許可……………一二九、一三四

營業財産……………一六二、一六四、二八六、二九五

積極部分、消極部分……………一六二

營業ノ讓渡……………一六九以下、三七六

四二八

意義……………一六九

移轉セラルヘキ財産ノ範圍……………一六九

一部ノ讓渡……………一七二

營業讓渡ノ債權契約……………一六九、一八〇以下

性質……………一八一

效力……………一八〇

營業讓渡ノ履行行爲……………一八九、一八二

營業讓渡ノ當事者……………一七五以下

讓渡人……………一七五、一七八

讓受人……………一七六、一七七

營業讓渡人ノ競争業禁止……………一八六以下

內容……………一八六

性質……………一八八

營業讓渡ノ第三者ニ及ホス效力……………一八八以下

讓渡人ノ債務者ニ及ホス效力……………一八九

讓渡人ノ債權者ニ及ホス效力……………一九〇

營業ノ相續……………一七二

營業ノ遺贈……………一七三

營業ノ質入……………一九一

營業ノ質貸借……………一九一

營業所……………一九三以下、二四九、三八五

意義……………一九三

住所トノ關係……………一九三

效果……………一九四

營業ノ本據……………一九三

營利法人……………一四六

テ

定款……………九〇

鐵道ノ買收……………一七四

手形……………三二九

ア

惡意……………二二七

サ

產業……………二

產業組合……………一五一

財産目錄……………二七六、二八九以下

意義……………二八九

調製ノ時期……………二九一

通常、非常財産目錄……………二九二

記載スヘキ財産……………二九五

財産ノ評價(評價ヲ見ヨ)

裁判上、裁判外ノ行爲……………三七七、三八二

キ

共通法……………六三

共同相續人ノ商業……………一八

共同支配人……………三八六以下

業トスルコトノ意義……………一〇六

禁治産者……………一三六

競争業禁止……………一八六、一八八、三九三、四〇八

ユ

有價證券……………三二七

有限責任社員……………三七二

名義人……………一〇四

民法(民法典)……………九、七三、八四

民法ノ商化……………二五

民商二法竝立ノ弊害……………一一

民商二法統一論……………一二

民事……………六八

商事トノ關係……………六八

民事慣習法……………七四、九二、九五

民事特別法令……………八八、九四

民事會社……………一一九、一四八

未成年者……………一二二、一二八

法定代理人ノ許可……………一一三、一二九

未成年者ト會社ノ無限責任社員……………一三三

四二九

商.....一以下

經濟上ニ於ケル商、法律.....二

上ニ於ケル商.....三

固有ノ商、補助的ノ商.....三

營業的商、非營業的商.....五

商法.....七以下、七四

廣義ノ商法、狹義ノ商法.....七、八

商私法、商公法、商國際法.....七

形式的意義ノ商法.....九

民法トノ關係.....九

商法ノ世界の傾向.....一三

商法ノ進歩的特質.....一四

學理上ノ商法.....一五

商法典.....九、七四、七八

商法施行法.....五八

商法ノ沿革.....一七以下

古代ノ商法.....一八

中世ノ商法.....二一

近世ノ商法.....二四

商法ノ法系.....二七以下

佛法系.....二八

獨法系.....三一

獨佛折衷法系.....三三

英美法系.....三四

商法ノ編別.....四四

商法適用ノ範圍.....五八以下

時的範圍.....五八

人的、地的範圍.....五九

物的範圍.....六四

公法人ノ商行為ニ關スル適用.....六九

一方の商行為ニ關スル適用.....七〇

商法適用ノ順位.....七四

商法ノ解釋.....七五

文理の解釋、論理的解釋.....七五

擴張の解釋、限縮の解釋.....七五

商法的企業形態ノ變更.....一七九

商行為.....一九〇、六七、九六

絕對の商行為、營業的商行為.....九九

基本的商行為、補助的商行為.....一〇〇

附屬的商行為.....一一一、一七六

商行為ノ代理又ハ媒介.....四〇三、四一二

商事.....六四以下、八六、八七

意義.....六四、六七

民事トノ關係.....六八

商事法主義.....二八

商事裁判所.....六六

商事適用法規(商事法規ノ法源).....七三

商事特別法令.....八六以下、九四

商事會社.....一一〇、一一九、一四八

商人.....九六以下、一二七、一四八

意義.....九六

當然ノ商人、必然ノ商人、任意ノ商人、形式ノ商人.....九七

商人ノ意義ニ關スル立法主義.....九七

要件.....九九

商人タル資格得喪ノ時期.....一〇九以下

商事會社ト商人資格得喪時期.....一一〇

自然人タル商人.....一一一

商人資格ノ發生.....一一一

商人資格ノ消滅.....一一三

商人タルコトヲ得ル資格.....一二七以下

自然人.....一二七

商人タル法人.....一三八

商人團體.....二〇、二三

商人法.....二四

商人法主義.....二八

商慣習.....八二

商慣習法.....六四、七三、七八

八二、九四

意義.....七八

適用ノ順位.....七八

效力.....八〇

立證.....八三

商業ノ制限.....一二二以下

公法上ノ制限.....一二三

私法上ノ制限.....一二五

商業自由ノ原則.....一二二

商業ヲ營ム能力.....一二八

商業登記.....一五九、二〇一以下

(尙「ト」部ヲ見ヨ)

意義.....二〇三

登記事項.....二〇五、二二三

登記事項ノ公告.....二二〇

登記義務.....二〇八

登記ノ手續.....二一〇以下

登記ノ公示.....二一八

效力.....二二一以下

商業帳簿.....一六〇、二七一以下

四〇五

意義.....二七四以下

種類.....二七六

商業帳簿ノ作成及ヒ記載.....二七七以下

商業帳簿ノ保存.....二七九

商業帳簿ノ提出.....二八〇

商業帳簿ノ證據力.....二八三

商業使用人.....三五〇以下、四〇四

意義.....三五三

廣義ノ使用人.....三五四、三六一

狹義ノ使用人.....三五四、三六一

商業見習者.....三六〇

商號.....一五九、二三四以下

三九五、四〇五

意義.....二三七

人的商號、物的商號.....二四三

自然的商號、人工的商號.....二四三

商號ノ登記.....一五九、二二九、二五〇

效力.....二二九

商號權.....二三八、二六〇以下、二六二

人格權的商號權.....二六三以下

財產權的商號權.....二六四以下

登記前ノ商號權.....二六四以下

登記後ノ商號權.....二六四以下

商號專用權.....二二九、二五一以下

(消極的商號權).....二六〇以下

商號使用權.....二二九、二六六以下

(積極的商號權).....二七〇

商號ノ讓渡.....二二九

登記.....二二九

方式.....二六七

當事者.....二六七

商號ノ選定.....二四二以下

商號自由ノ原則.....二四二、二四八



商號真實主義	二四二	支店ノ登記	二〇七、二二七	私用財産	一六二、一六七
商號單一ノ原則	二四八、二四九	時際法	五八	氏名權	二八六、二九五
商號ノ廢止	二五九	時價	三一三、三四〇	主人	一六五、三五三、三六三
商號ノ變更	二五九	自治法	七四、八九以下、九四	主人ノ許諾	三九六
商號ノ相續	二六九以下	意義	八九	主要簿	二七六
商標	二三六	效力	九一	信託事務ノ承繼	一七四
支配人	一三八、一五九、三五四 三六一、三六三、三六八 三六九以下	立證	九一	出張所	一九七
意義	三六九以下	自由法說	七六	囑託登記	二一〇
支配權	三七一以下	自己ノ名ヲ以テスルコトノ意義	一〇三	實質的審査主義	二一五
支配人ノ代理權	三七七以下	條約	七四、八九、九四	社債	三四二
代理權ニ加ヘタル制限	三八三	條約法	八九	純財産額	三四五
代理權ノ法定範圍	三八四	條理	九二	純負債額	三四六
支配人ノ選任	三七三以下	事實タル慣習	九三、九五	授權契約	三六六、三七四
選任行為ノ性質	三七四	準備行為	八二	進入權	三九四
支配人ノ解任	三七三以下	準禁治產者	一三七	表見商人	一一二
支配人ノ義務	三九二	保佐人ノ同意	一三七	評價	二九八以下
商行爲禁止義務	三九二	準備金	三四二	評價價額	三〇〇
支店	一九六以下、二二七	私法人	一四六		
意義	一九六				

固定財産ノ評價	三〇六	有價證券	三二七	絕對的商行爲	九九
流動財産ノ評價	三〇九	債權	三三〇	善意	二二五
時價	三一三、三四〇	其他ノ財産	三三三	責任準備金	三四二
評價方法	三二三以下	債務	三三八	又	
不動産	三二三	秘密積立金	三二〇	數人ノ一營業	一六
動産	三二六				

# 商法條文索引

條文數	頁數
一	七、六四、六七、六八、七三、七四、七八、八〇、八一、八二、八三、八四
二	六九、七〇、一四一、一四五、一一、七一、七二
三	一〇、六七、九六、九八、九九、一〇五、一一〇、一二七、一三八、一五〇、四〇四
四	一二九、一三四、一六一、二〇六
五	一三三、一三四、一三六
六	一二九、一三二、一三六、一三七、一六一、二〇六、三七二
七	一五二、一五三、一五四、一五五、一五九
八	一九五、二〇一、二〇三、二〇二、二一一
九	一九六、二〇〇、二〇七、二二七、二五四
一〇	二二〇
一一	一三〇、一三一、一三三、二二一、二二三、二三四、二二六、二二七、二二八、二二九、二三〇、三三一、三八四、四
一二	一九六、二〇〇、二二七、三三一
一三	二二一
一四	一三〇、一三五、二〇七、二〇八、二一〇、二五九
一五	

商法條文索引

條文數	頁數
一六	二三四、二三七、二四二、二四三、二四四、二四五、二六〇、二六一
一七	二四四、二四六、二四七、二四八、二六一、二六八
一八	二四四、二四六、二四八、二六一、二六八
一九	一六一、二〇六、二五二、二五三、二五五、二六四
二〇	一六一、二〇六、二五五、二五六、二五七、二五八、二五九、二六四
二一	二〇六、二二九、二三〇、二六五、二六六、二六七、二六八
二二	一二五、一六一、一六九、一七三、一八六、二六六、二六八
二三	一六一、一八六、二六八
二四	二〇六、二〇七、二五九
二五	一六〇、二七六、二七八、二八五、二八六、二八七、二八八
二六	一六〇、二七六、二八九、二九一、二九四、二九六、二九八、二九九、三〇三、三〇八、三一八、三一九、三二〇、三二二、三二三、三三三、三三六、三三七、三三〇、三三三、三三八、三四〇、三四五
二七	一六〇、二七六、二九一、二九四
二七、二	二八〇
二八	一六〇、一六一、二七九、二八〇
二九	三五五、三六九、三八六

四三五

三三〇 三五六、三六九、三七三、三七七、三八一、三九〇、三九八  
 三〇、二 三八六、三九一、  
 三三一 一五九、二〇〇、二〇六、二〇七、二二八、三五六、三七〇、三七七、三八六、三九一  
 三三二 一二五、三五二、三五六、三六三、三九四、三九六、三九七、四一〇、四一一  
 三三三 三五五、三九七、三九九  
 三四 三五六、三五七、三五九、三六三、三九九  
 三五 三五二、三五三、三五六、三五七、三六三、  
 三六 一六一、四〇〇、四〇二、四〇五、  
 三七 四〇八、  
 三八 一二五、三九二、四〇九、四一一  
 三九 四一八、四一九、四二〇、  
 四〇 四二〇、四二二、四二三、四二四、  
 四一 四二二、四二四、  
 四二 六七、一〇一、一四六、一四八、  
 四四 一九三、  
 四五 一一〇、一五七、二三〇、二三二  
 四六 一一〇、二三二、  
 四七 一一〇、  
 五〇 一五七、

五一 一九九、二〇〇、二〇八、  
 五二 二〇〇、  
 五三 二〇〇、二〇七、二〇八、  
 五七 三七四、  
 五八 一七八、  
 六〇 一二五、三九二、四〇九、  
 六二 三七二、三七九、  
 六七 三四六、  
 七三 二二二、  
 七四 一七八、  
 七六 二〇〇、  
 七八 二九二、  
 八一 二〇〇、  
 八二 一七五、  
 八三 二二二、  
 八五 二九二、  
 九一 三七二、  
 九四 二九二、  
 九七 二〇〇、

九九 二〇〇、  
 一〇一 二八〇、  
 一〇五 一七五、一七八、二九二、三四六、三七二、  
 一〇六 一五七、  
 一〇七 二〇〇、  
 一一〇 三七四、  
 一一三 一二五、  
 一一四 三七二、  
 一一八 二〇〇、  
 一四一 二〇〇、  
 一四二 二二二、  
 一四七 二二二、  
 一四九 二二二、  
 一五〇 一八四、  
 一六九 三七四、  
 一七〇 三七二、  
 一七四 三四七、  
 一七五 一二五、三九二、四〇九、  
 一八四 三七三、

商標條文索引

一九〇 一五七、  
 一九一 一五七、  
 一九二 一五七、  
 一九四 三四六、  
 一九五 三四六、  
 一九六 三一八、  
 二〇二 三四二、  
 二〇四 二〇〇、  
 二一七 二〇〇、  
 二二〇 二九二、  
 二二五 一七五、二九二、  
 二二七 二九二、  
 三七、二 二九二、  
 二二二 二八〇、  
 二二四 三七二、  
 二二六 九二、  
 二二七 一五七、  
 二二八 一五七、  
 二二九 一五七、  
 二三〇 一五七、  
 二四二 二〇〇、  
 二四三 三七二、三七四、





大正十四年五月廿五日  
 大正十三年七月十六日  
 大正十一年四月十六日  
 大正十年五月十六日  
 昭和三年五月廿五日  
 昭和二年五月十六日  
 昭和元年五月十六日  
 大正十四年五月廿五日  
 大正十三年七月十六日  
 大正十一年四月十六日  
 大正十年五月十六日  
 昭和三年五月廿五日  
 昭和二年五月十六日  
 昭和元年五月十六日

發售所  
 發行所  
 印刷者  
 著作發行者兼

東京府荏原郡東調布町  
 松本 燾  
 東京市神田區下六番町十七番地  
 松澤 玨  
 東京市神田區河臺南甲賀町六番地  
 中央大  
 東京市神田區一ッ橋通町五番地  
 有斐  
 東京市神田區中猿樂町一番地  
 巖松

商法總論奧附  
 正價金五圓

治三學閣堂

東京市神田區下六番町七十七番地同勞舍 印刷所

本書條文索引及ヒ事項索引ハ中央大學  
 講師片山金章君及ヒ辯護士早稻田逸郎  
 君ノ手ニ成レリ此外兩君ハ本書ノ出版  
 ニ付キ多大ノ助力ヲ與ヘラレタリ之ヲ  
 特記シテ感謝ノ意ヲ表セムトス

著者

書庫

法律資料第一課  
28.3.13  
調查立法考查局

以前數回讀了  
昭八五月讀了

昭八十一月二十九日讀了

昭九十二月二日讀了

昭十四月七日讀了

faint circular stamp

